

住まい・まちづくりに関する市民意向調査

結果報告書

平成 25 年 10 月

帯 広 市

I 住まい・まちづくりに関する市民意向調査

1. 調査の目的

住生活基本計画の策定にあたり、アンケートにより市民の方々の今後の住宅施策に対する意見や要望などの傾向を把握し、計画策定の参考とすることを目的とします。

2. 調査期間

平成 25 年 5 月 15 日から平成 25 年 5 月 31 日まで

3. 配付対象、回収率

市内の住宅・まちづくり等に関連する 13 団体の会員及びその関係者を対象とし、各団体に 10～60 票ずつ、合計 431 票配付し、回収数は 270 票、回収率は 62.6%となりました。

なお、回収率が低かった帯広市町内会連合会に 10 月 1 日と 10 日に再度調査を行い 42 票配付し、全票回収した結果、総体で 473 票配付し、回収数は 312 票、回収率は 65.9%となりました。

表 1 アンケート配付団体

団 体 名	配付数	回収数	回収率
帯広市社会福祉協議会	58	24	41.4%
帯広市身体障害者福祉協会	50	38	76.0%
北海道理学療法士会 十勝支部	30	30	100.0%
帯広消費者協会	30	23	76.7%
帯広市婦人団体連絡協議会	30	19	63.3%
連合北海道帯広地区連合会	39	39	100.0%
帯広青年会議所	30	9	30.0%
帯広商工会議所	20	13	65.0%
帯広市商店街振興組合連合会	20	10	50.0%
北海道宅地建物取引業協会 帯広支部	14	5	35.7%
北海道建築士会 十勝支部帯広分会	30	12	40.0%
帯広建設業協会	30	30	100.0%
帯広市町内会連合会	50	4	8.0%
帯広市町内会連合会（再調査）	(42)	(42)	(100.0%)
不明	—	14	—
合計	431 (473)	270 (312)	62.6% (65.9%)

4. 主な質問項目

- ・属性（家族構成、居住地、住宅所有形態）
- ・持ち家の方のみ（建替え・増改築・リフォームの予定の有無・内容と時期・理由、無料簡易耐震診断の周知度、耐震改修補助の活用要望）
- ・借家の方のみ（住宅を選ぶ際に重視したこと、選択の際に活用したもの、入居後に困ったこと、今後の住み替え要望）
- ・高齢期の住宅（高齢期に暮らしたい住宅、高齢期の不安）
- ・住宅を選ぶ際に重視すること（住宅性能・住環境等について世代別意向、住宅について必要な情報）
- ・今後の住宅関連施策の展開方向、その他自由記述

II 調査結果

(注) 調査データの表示について

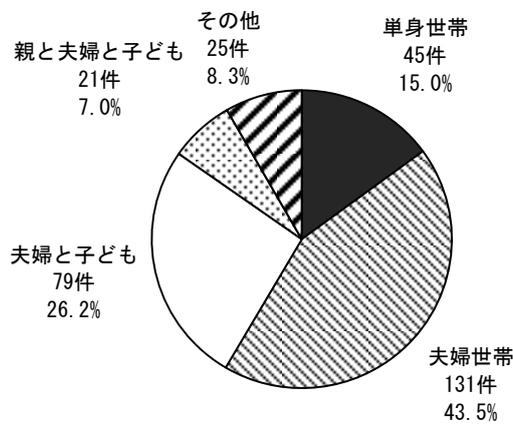
- ・複数回答の質問は、回答者数ではなく、回答数を総数としています。
- ・各質問において、未回答は件数に含めていないため、各質問で合計数が異なる場合があります。

1. 自身の住まいと住宅について

問1 家族について

多い順に、夫婦世帯 43.5%、夫婦と子ども 26.2%、単身世帯 15.0%、その他 8.3%です。

図 1-1 家族構成

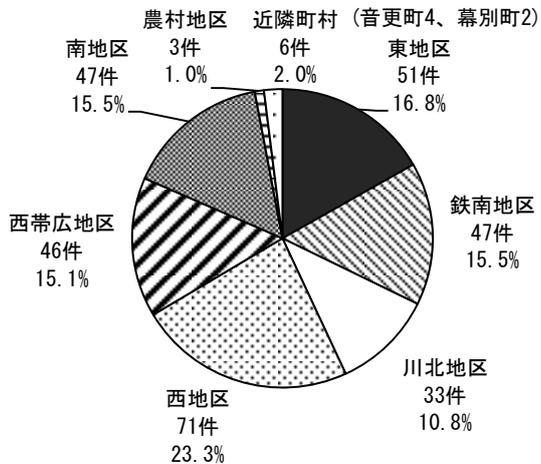


	件数	構成比
単身世帯	45	15.0%
夫婦世帯	131	43.5%
夫婦と子ども	79	26.2%
親と夫婦と子ども	21	7.0%
その他	25	8.3%
合計	301	100.0%

問2 居住地について

多い順に、西地区 23.3%、東地区 16.8%、南地区及び鉄南地区 15.5%、西帯広地区 15.1%、川北地区 10.8%、近隣町村 2.0%、農村地区 1.0%です。

図 1-2 居住地

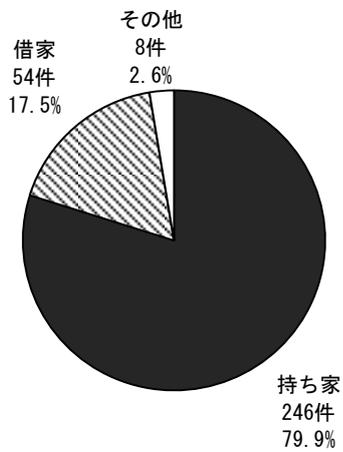


	件数	構成比
東地区	51	16.8%
鉄南地区	47	15.5%
川北地区	33	10.8%
西地区	71	23.3%
西帯広地区	46	15.1%
南地区	47	15.5%
農村地区	3	1.0%
近隣町村	6	2.0%
合計	304	100.0%

問3 住宅の種類

持ち家が多きも多く79.9%で、大半を占めています。ついで借家17.5%です。

図 1-3 住宅所有形態



	件数	構成比
持ち家	246	79.9%
借家	54	17.5%
その他	8	2.6%
合計	308	100.0%

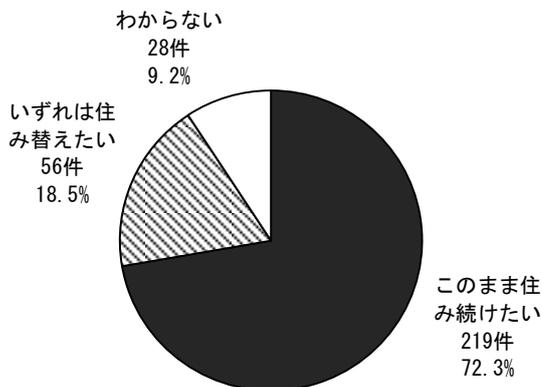
問4 今後の住み替えについて

(1) 今の住宅での居住

「このまま住み続けたい」が最も多く72.3%で、7割を占めています。ついで「いずれは住み替えたい」が18.5%となっています。

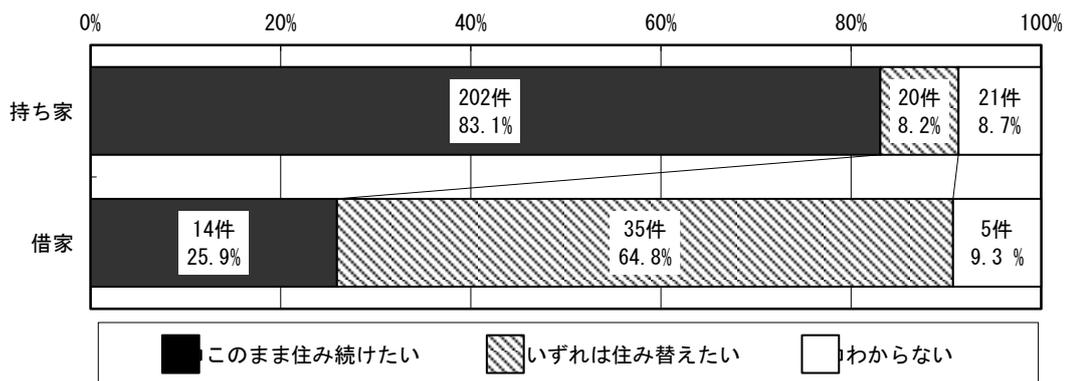
これを「持ち家」「借家」別でみると、持ち家に「このまま住み続けたい」とした人が83.1%います。対して借家では「いずれは住み替えたい」とした人が64.8%います。「持ち家」「借家」で、住み替えに関する意向が対照的であることがわかります。

図 1-4 住み替えの意向



	件数	構成比
このまま住み続けたい	219	72.3%
いずれは住み替えたい	56	18.5%
わからない	28	9.2%
合計	303	100.0%

図 1-5 住み替えの意向（持ち家・借家別）



(2) 「このまま住み続けたい」理由（3つまでの複数回答）

「買い物に便利な商業施設がある」がもっとも多く17.2%です。ついで「緑や空気等の自然環境がよい」14.0%、「近所づきあい等がやりやすい」9.4%、「周辺の雰囲気、イメージがよい」9.3%などとなっています。

「その他」の理由としては、住み替え費用、親の代から住んでいるなどが挙げられています。

またこれを持ち家・借家別にみると、持ち家では「買い物に便利」「緑や空気」「近所づきあい」の順となっています。借家では「買い物に便利」「通勤通学時間」「地価、家賃」となっています。どちらも買い物の利便性が1位ですが、2位以降は、前者では自然や社会的環境を理由にしているのに対し、後者では時間や家賃など、コストを理由に挙げています。

また、これを居住地別にみると、鉄南・西ではいずれも「買い物に便利」が回答者の約2割以上を占めていますが、西帯広では18.5%、川北では15.2%、東では14.1%、南では12.5%となっています。つぎに特徴的なのは、「通勤通学時間」が東で14.9%ですが、他地区ではいずれも10%以下であること、「緑や空気」が南で25.0%ですが、他地区では西帯広の16.3%から、鉄南・西・川北・東の順に回答率が下がっており、東では8.1%となっています。（回答数の少ない農村・近隣をのぞく）。

図 1-6 現在の住宅に住み続けたい理由

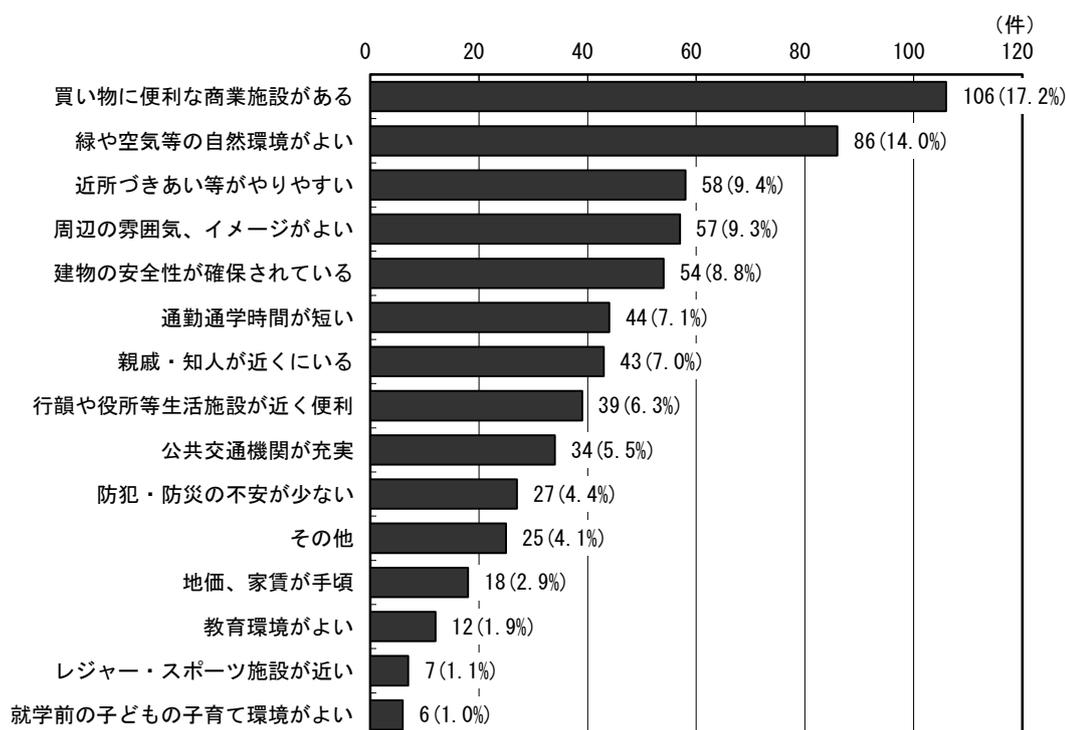


図 1-7 現在の住宅に住み続けたい理由（住宅所有形態別）

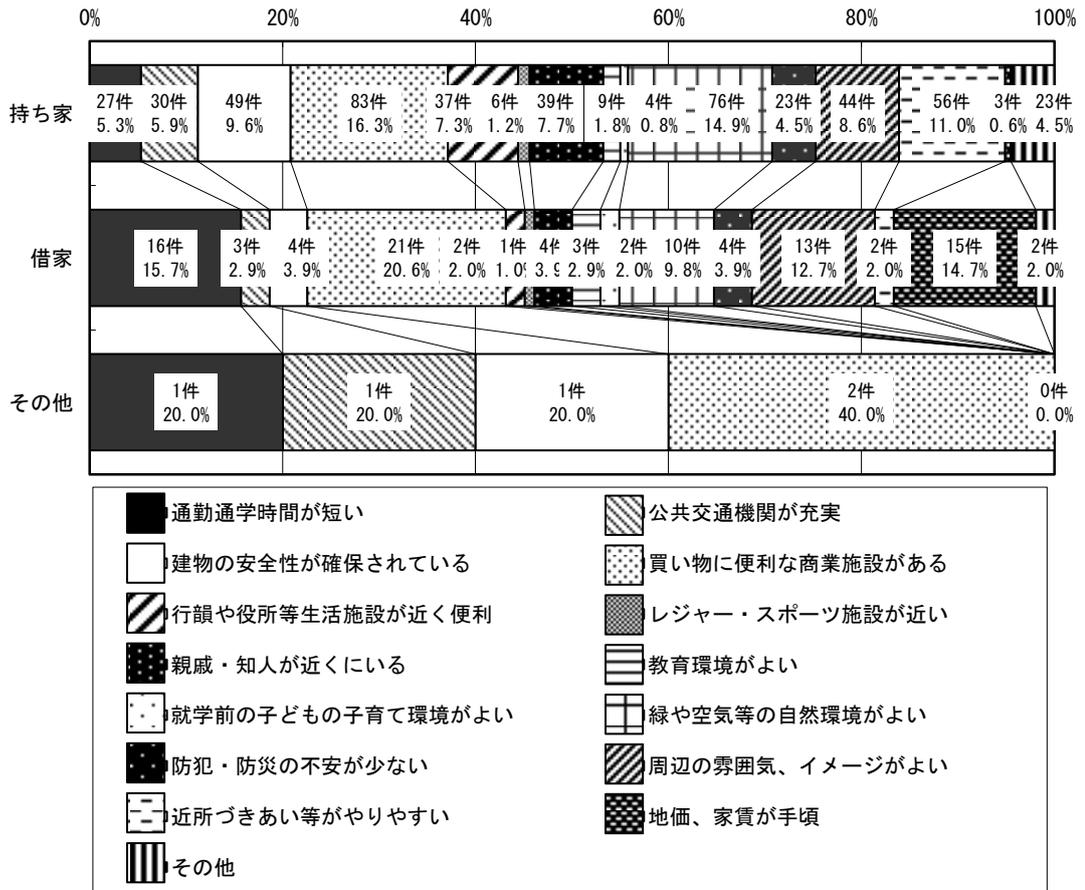
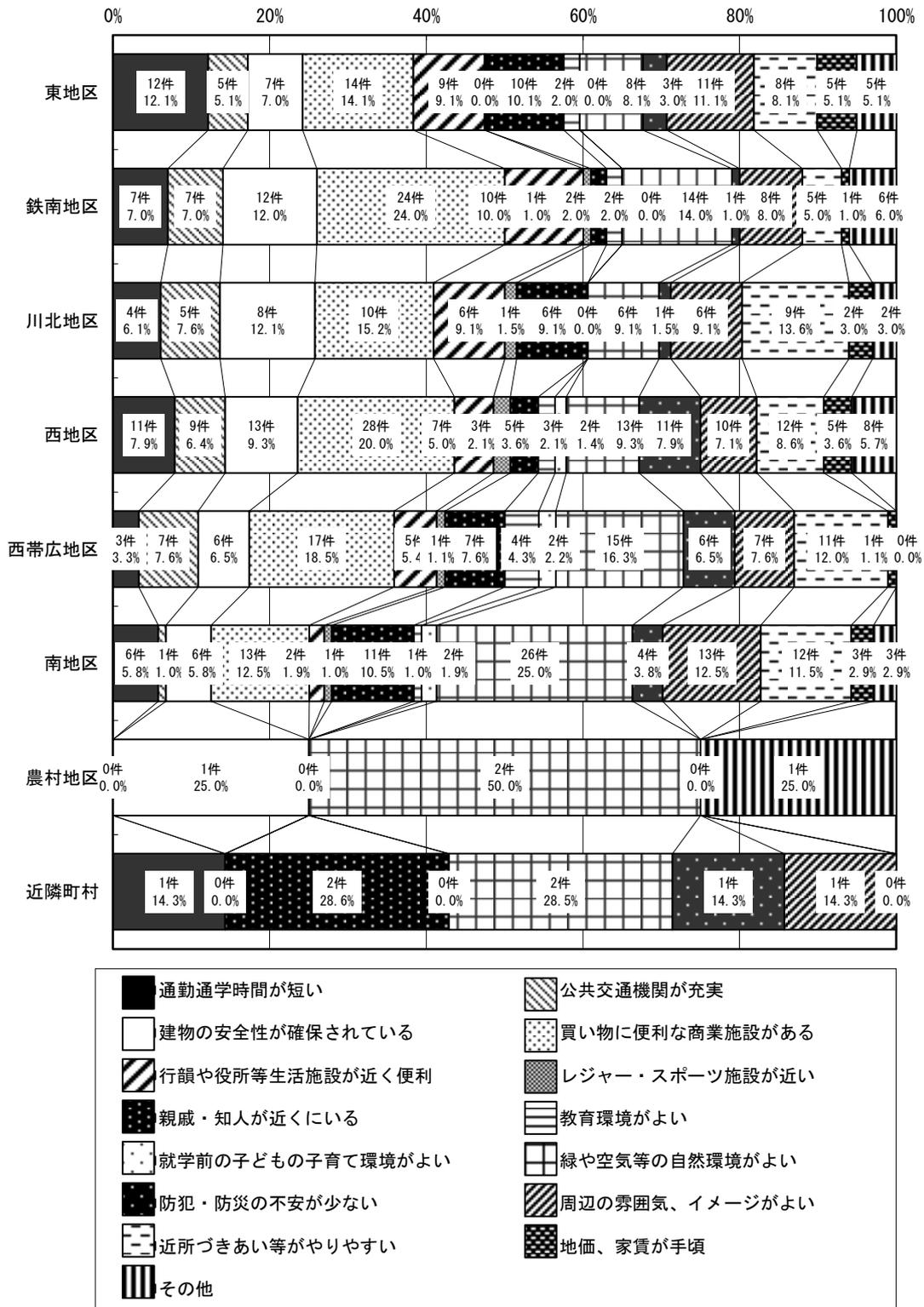


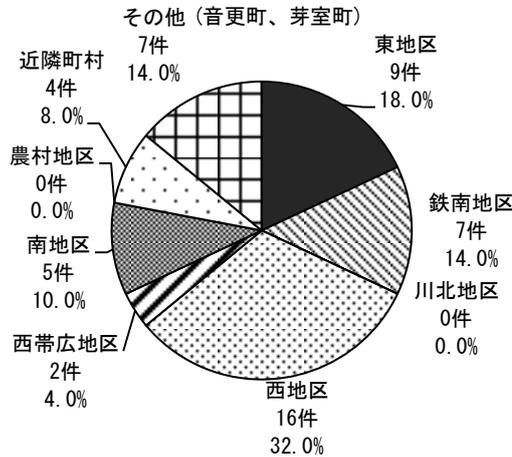
図 1-8 現在の住宅に住み続けたい理由（居住地区別）



問5 住み替える場合の転居先

多い順に、西地区32.0%、東地区18.0%、鉄南地区14.0%、南地区10.0%、近隣町村8.0%、川北地区・農村地区は0.0%です。その他としては札幌市、道外、海外などが挙げられています。

図 1-9 住み替え希望地区



	件数	構成比
東地区	9	18.0%
鉄南地区	7	14.0%
川北地区	0	0.0%
西地区	16	32.0%
西帯広地区	2	4.0%
南地区	5	10.0%
農村地区	0	0.0%
近隣町村	4	8.0%
その他	7	14.0%
合計	50	100.0%

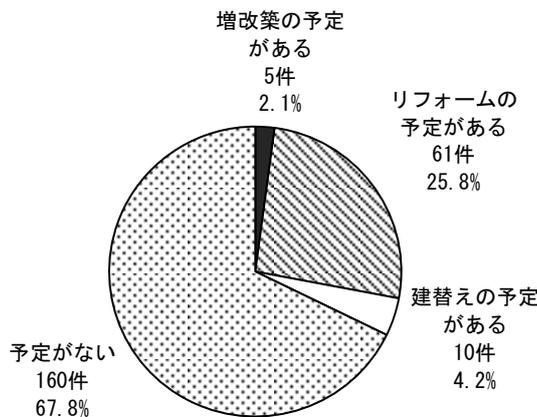
問6 持ち家の方について

(1) 今後の建替えや増改築、リフォームの予定

「予定がない」がもっとも多く67.8%で、7割を占めています。ついで「リフォームの予定がある」25.8%、「建替えの予定がある」4.3%、「増改築の予定がある」2.1%です。

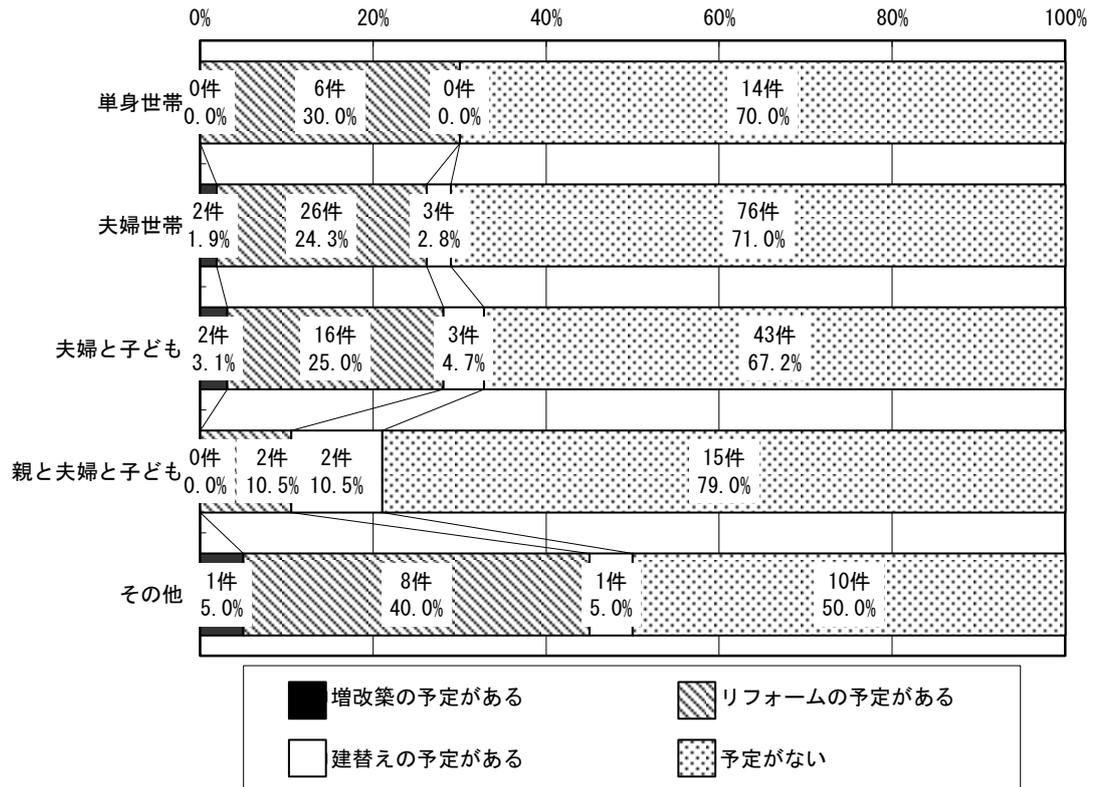
これを家族類型別にみても、いずれも「予定なし」が6割から7割、「リフォーム」が2割から3割で、あまりかわらないことがわかります。ただし「親・夫婦・子供」では「予定なし」が比較的多く、かつ「リフォーム」が比較的少なくなっています。

図 1-10 建替え、リフォーム等の実施予定（持ち家）



	件数	構成比
増改築の予定がある	5	2.1%
リフォームの予定がある	61	25.8%
建替えの予定がある	10	4.3%
予定がない	160	67.8%
合計	236	100.0%

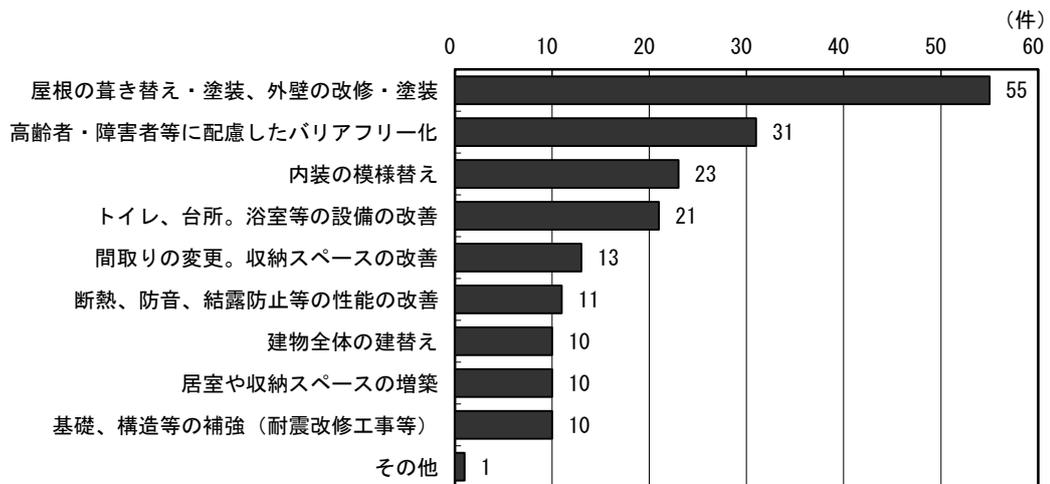
図 1-11 建替え、リフォーム等の実施予定（持ち家・家族類型別）



(2-1) 建替えや増改築、リフォームの内容（複数回答）

「屋根の葺き替え・塗装、外壁の改修・塗装」がもっとも多く 29.7%、ついで「高齢者・障害者等に配慮したバリアフリー化」16.8%、「内装の模様替え」12.4、「トイレ、台所、浴室等の設備の改善」11.4%などとなっています。

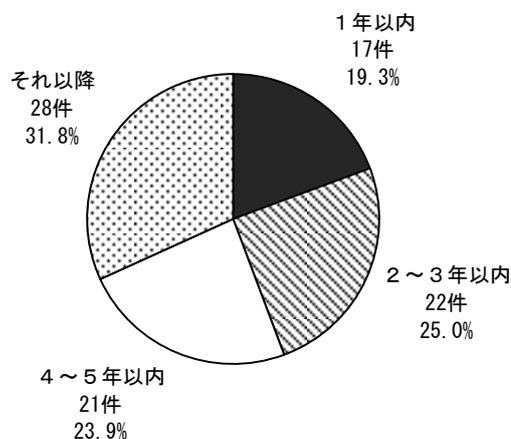
図 1-12 建替え、リフォーム等の実施予定内容



(2-2) 建替えや増改築、リフォームの時期

4～5年以降がもっとも多く31.8%、ついで2～3年以内25.0%、4～5年以内23.8%、1年以内18.3%です。

図 1-13 建替え、リフォーム等の実施予定時期

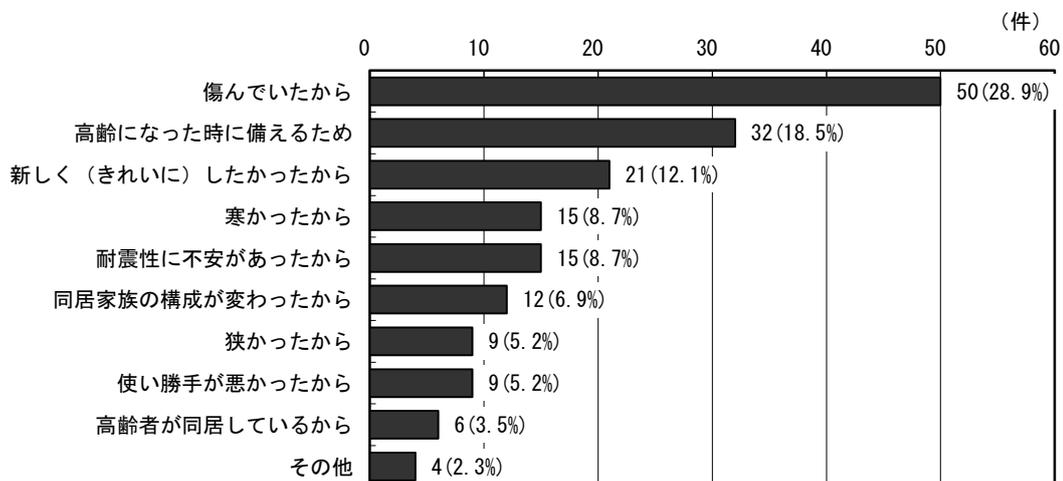


	件数	構成比
1年以内	17	19.3%
2～3年以内	22	25.0%
4～5年以内	21	23.9%
それ以降	28	31.8%
合計	88	100.0%

(3) 増改築、リフォーム又は建替えを行う理由（複数回答）

「傷んでいたから」がもっとも多く28.9%、ついで「高齢になった時に備えるため」18.5%、「新しく（きれいに）したかったから」12.1%、「寒かったから」「耐震性に不安があったから」が同数で8.7%などとなっています。

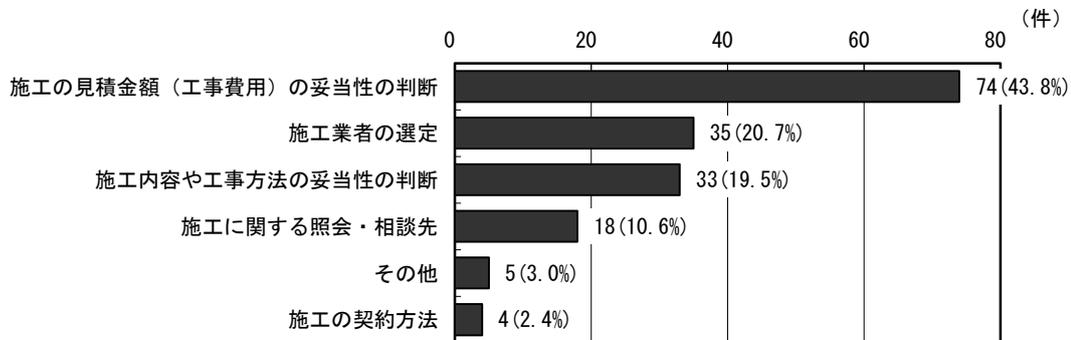
図 1-14 建替え、リフォーム等の実施理由



(4) 増改築、リフォーム又は建替えを行おうとするときに困っていること（複数回答）

「施工の見積金額（工事費用）の妥当性の判断」がもっとも多く43.8%、ついで「施工業者の選定」20.7%、「施工内容や工事方法の妥当性の判断」19.5%、「施工に関する照会・相談先」10.6%などとなっています。

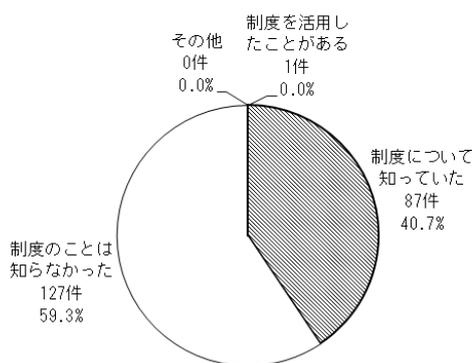
図 1-15 建替え、リフォーム等に困っていること



(5) 木造住宅の無料簡易耐震診断の実施について

「知らなかった」がもっとも多く59.3%で、6割が知りませんでした。ついで「知っていた」40.7%、「活用したことがある」は0.0%です。

図 1-16 簡易耐震診断制度の認知度

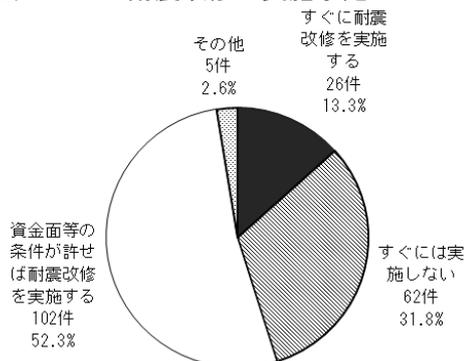


	件数	構成比
制度を活用したことがある	0	0.0%
制度について知っていた	87	40.7%
制度のことは知らなかった	127	59.3%
その他	0	0.0%
合計	214	100.0%

(6) 耐震改修について

「資金面等の条件が許せば耐震改修を実施する」がもっとも多く52.3%で、回答者の半数を占めています。ついで「すぐには実施しない」31.8%、「すぐに耐震改修を実施する」13.3%です。

図 1-17 耐震改修の実施予定



	件数	構成比
すぐに耐震改修を実施する	26	13.3%
すぐには実施しない	62	31.8%
資金面等の条件が許せば耐震改修を実施する	102	52.3%
その他	5	2.6%
合計	195	100.0%

問7 借家の方について

(1) 現在の住宅を選ぶ際に重視したこと（3つまでの複数回答）

「手頃な家賃」がもっとも多く24.8%、ついで「部屋の広さ」18.6%、「買い物、通勤等の利便性」「日照や風通し等居住環境の良さ」が同数で15.2%、「設備等の新しさ」「周辺環境の良さ」が同数で10.3%などとなっています。

また、これを家族類型別にみると、いずれも「家賃」が1位に挙げられているほかは、「単身」「夫婦」で「買い物、通勤の利便性」が他よりも比較的大きいことがわかります。そのほか「単身」では「部屋の広さ」、「夫婦」では「日照や風通し」が比較的重要視され、「夫婦と子ども」ではほかよりもまんべんなく重視していることがわかります（回答数の少ない「親・夫婦・子ども」「その他」をのぞく）。

図 1-18 借家を選ぶ際に重視した点

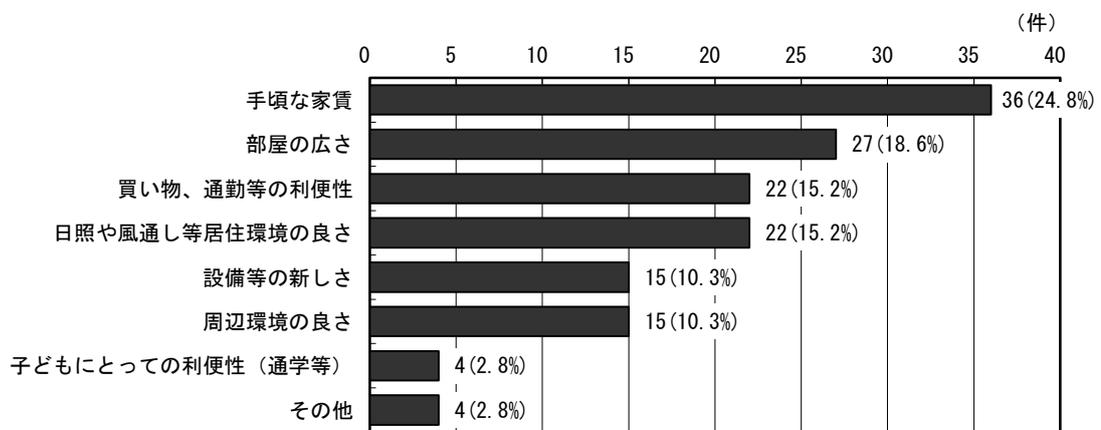
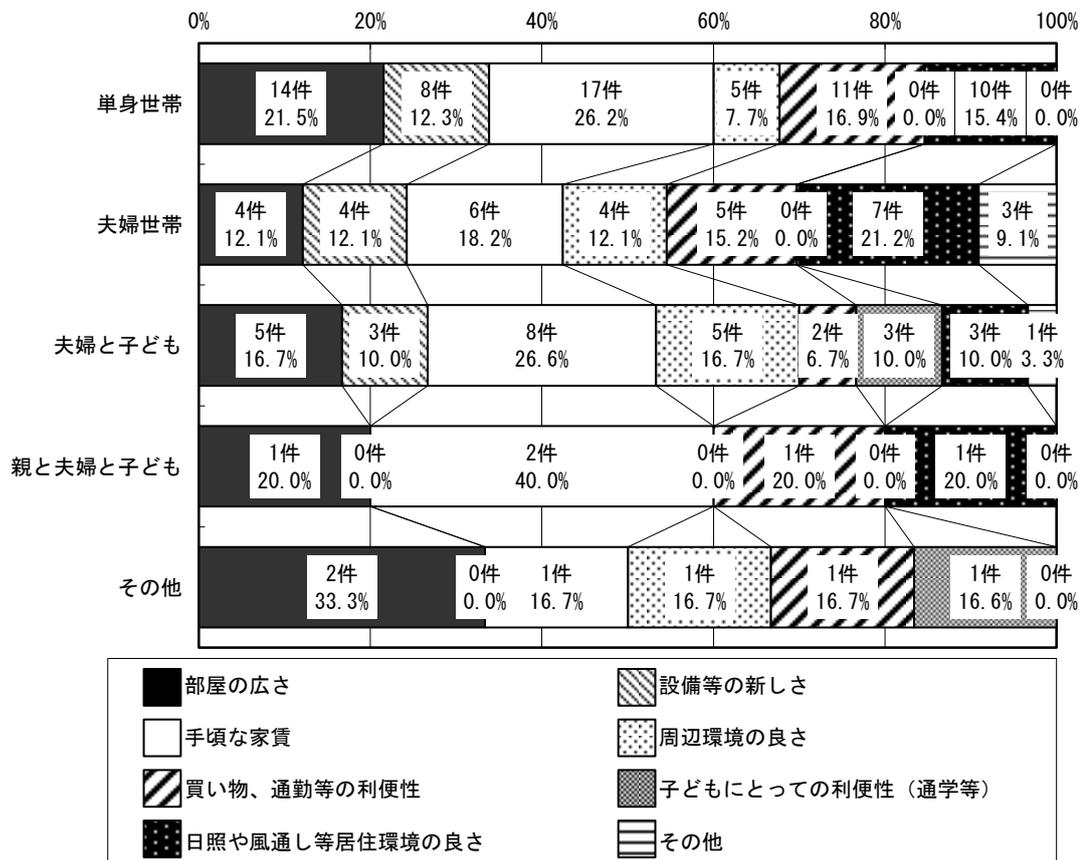


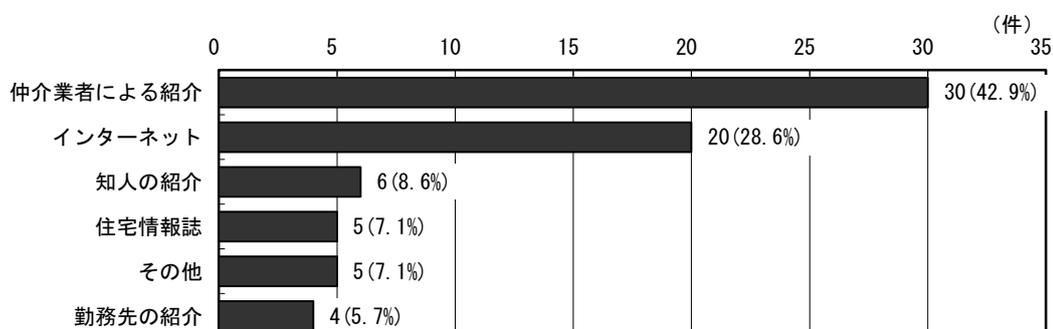
図 1-19 借家を選ぶ際に重視した点（家族類型別）



(2) 今の住宅を選ぶ際に活用したもの（複数回答）

「仲介業者による紹介」がもっとも多く42.9%、ついで「インターネット」28.6%、「知人の紹介」8.6%などとなっています。

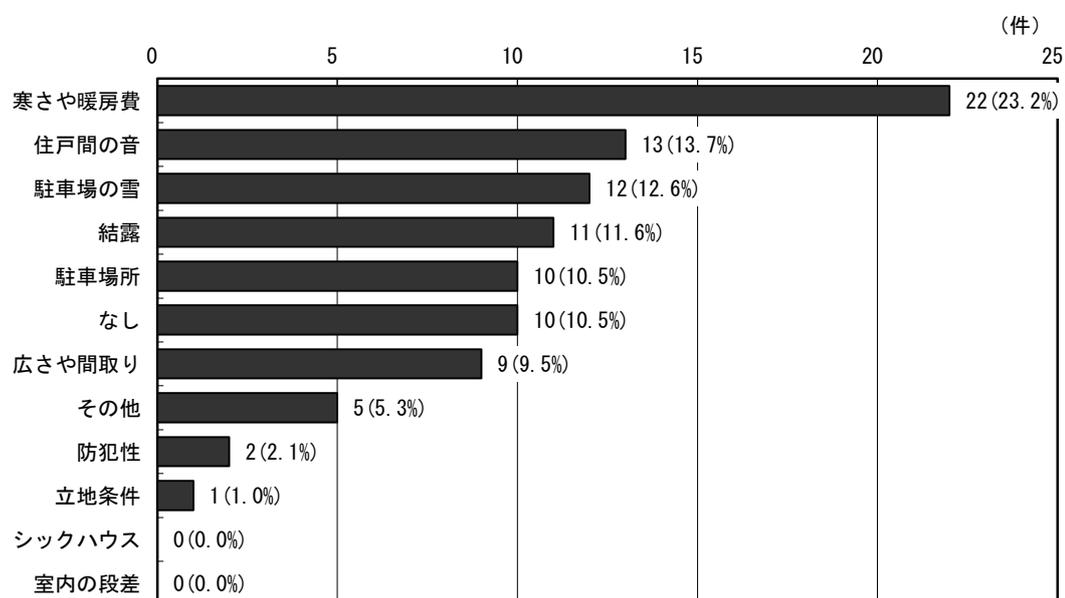
図 1-20 借家を選ぶ際に活用したもの



(3) 実際に入居してから困ったこと（複数回答）

「寒さや暖房費」がもっとも多く23.2%、ついで「住戸間の音」13.7%、「駐車場の雪」12.6%、「結露」11.6%、「駐車場所」「なし」が同数で10.5%、「広さや間取り」9.5%などとなっています。その他には住設の古さ、コンセントの数、路上駐車が多さなどが挙げられています。

図 1-21 借家に入居してから困った点

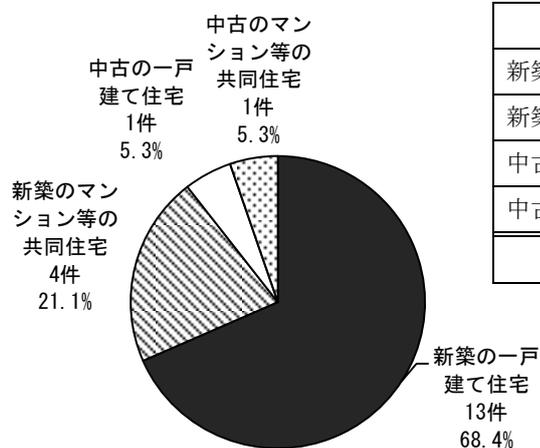


(4) 今後、住み替える場合の住宅

< 持ち家の場合 >

「新築の一戸建て住宅」がもっとも多く68.4%で、約7割を占めています。ついで「新築のマンション等の共同住宅」21.0%、「中古の一戸建て住宅」「中古のマンション等の共同住宅」が同数で5.3%です。

図 1-22 住み替え希望住宅（持ち家）

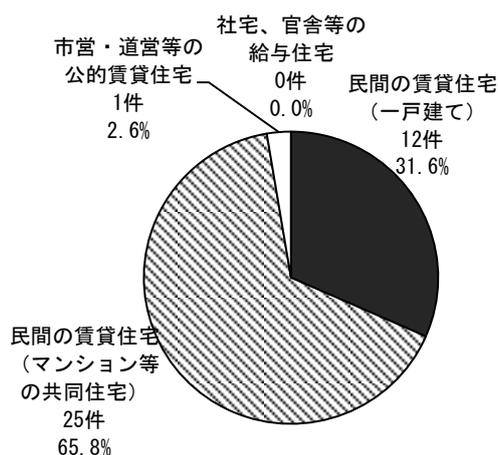


	件数	構成比
新築の一戸建て住宅	13	68.4%
新築のマンション等の共同住宅	4	21.0%
中古の一戸建て住宅	1	5.3%
中古のマンション等の共同住宅	1	5.3%
合計	19	100.0%

< 借家の場合 >

今後、住み替える場合の住宅（借家の場合）は、「民間の賃貸住宅（マンション等の共同住宅）」がもっとも多く65.8%で、回答者の7割近くを占めています。ついで「民間の賃貸住宅（一戸建て）」31.6%、「市営・道営等の公的賃貸住宅」2.6%、「社宅、官舎等の給与住宅」0.0%です。

図 1-23 住み替え希望住宅（借家）



	件数	構成比
民間の賃貸住宅（一戸建て）	12	31.6%
民間の賃貸住宅（マンション等の共同住宅）	25	65.8%
市営・道営等の公的賃貸住宅	1	2.6%
社宅、官舎等の給与住宅	0	0.0%
合計	38	100.0%

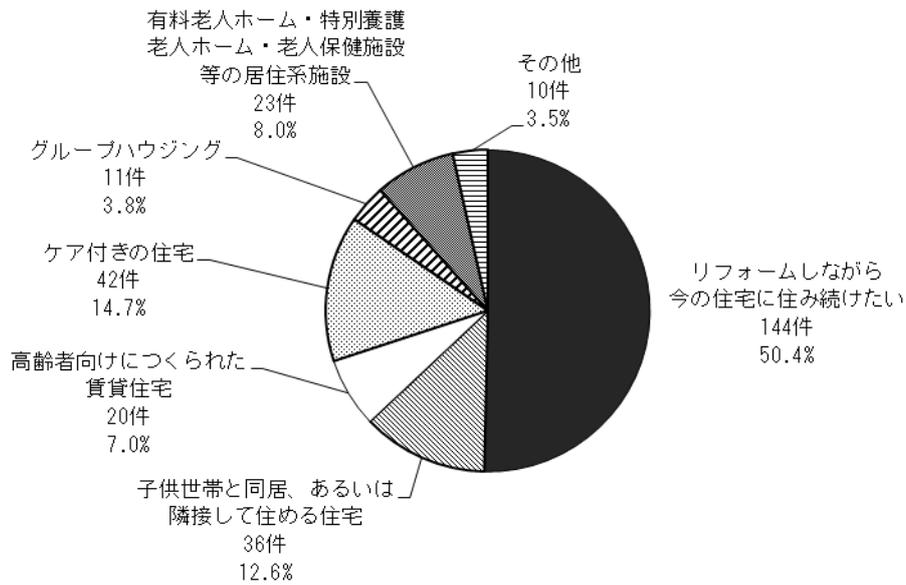
2. 住宅と住環境について

問8 高齢者に関することについて

(1) 現に高齢者の場合、あるいは高齢者になったとき暮らしたい住宅

「リフォームしながら今の住宅に住み続けたい」がもっとも多く 50.4%で、5割を占めています。ついで「ケア付きの住宅」14.7%、「子供世帯と同居、あるいは隣接して住める住宅」12.6%などとなっています。その他には、「介助が必要でなければ市営住宅やマンションなど」「除雪した雪捨て場が近くにある場所」などが挙げられています。

図 2-1 高齢期に暮らしたい住宅

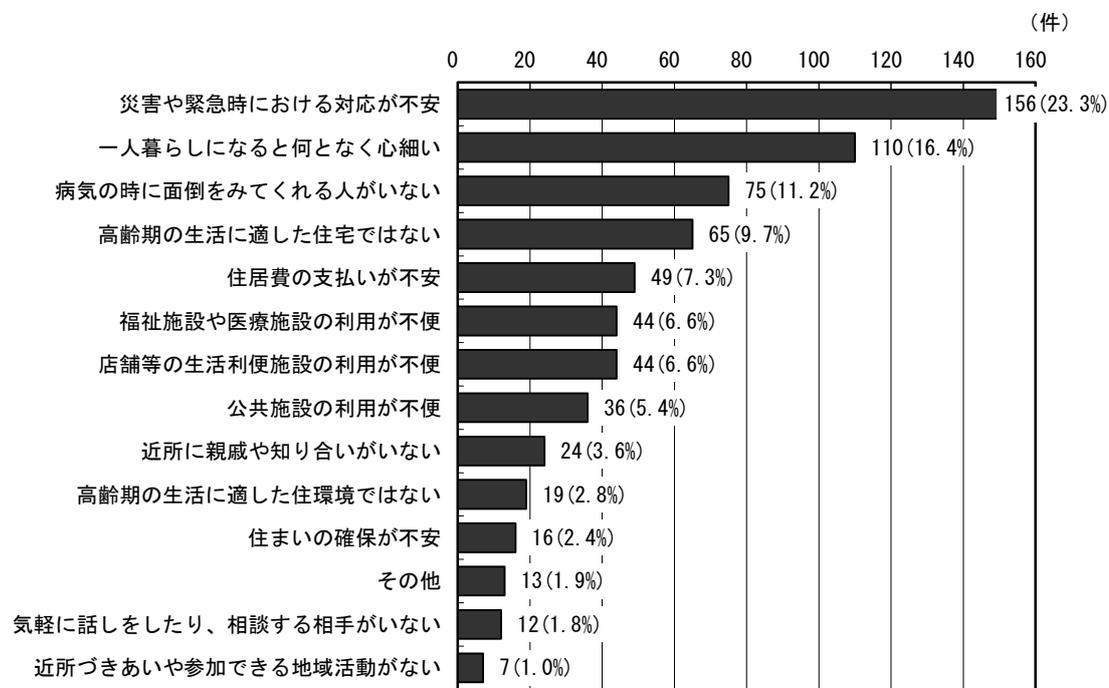


	件数	構成比
リフォームしながら今の住宅に住み続けたい	144	50.4%
子供世帯と同居、あるいは隣接して住める住宅	36	12.6%
高齢者向けにつくられた賃貸住宅	20	7.0%
ケア付きの住宅	42	14.7%
グループハウジング	11	3.8%
有料老人ホーム・特別養護老人ホーム・老人保健施設等の居住系施設	23	8.0%
その他	10	3.5%
合計	286	100.0%

(2) 高齢期の生活をするときの不安（3つまでの複数回答）

「災害や緊急時における対応が不安」がもっとも多く 23.3%、ついで「一人暮らしになると何となく心細い」16.4%、「病気の時に面倒をみてくれる人がいない」11.2%、「高齢期の生活に適した住宅ではない」9.7%などとなっています。

図 2-2 高齢期の生活における不安



問9 住宅を選ぶときに重視することについて

(1) ライフステージ毎に特に重要と思うもの（3つまでの複数回答）

< 若年単身期 >

住宅性能では「住まいの手ごろさ（広さ・間取り・家賃）」がもっとも多く28.5%です。ついで「駐車場や駐輪場の設置状況」13.5%、「日当たりや風通し」12.1%、「台所・浴室・便所等の設備」9.0%などとなっています。

また住環境では「通勤・通学先への近さ」がもっとも多く28.4%です。ついで「日常の買い物への利便性」22.2%、「公共機関の利便性」12.5%などとなっています。

住宅性能では広さより家賃、住環境では各種の利便性が上位に挙げられています。

図 2-3 若年単身期に重視する住宅性能

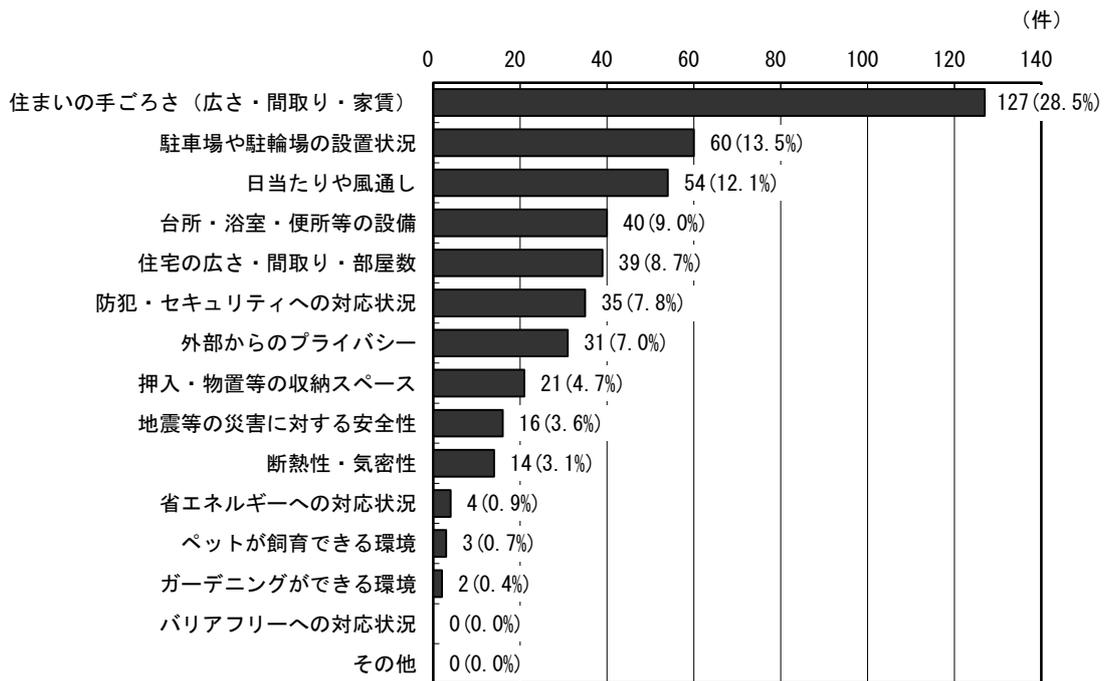
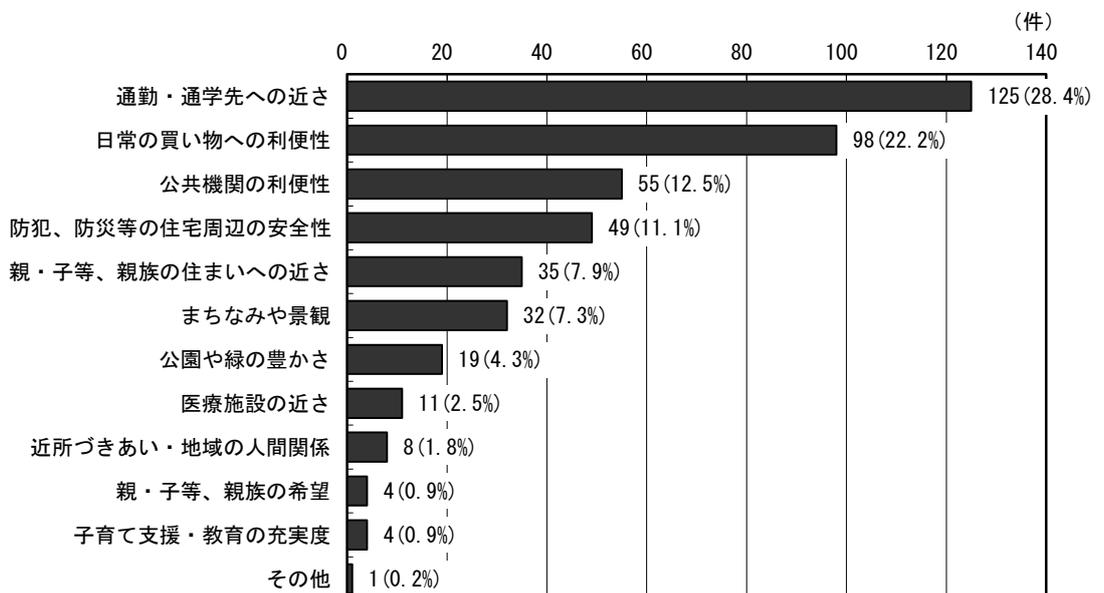


図 2-4 若年単身期に重視する住環境



< 子育て期 >

住宅性能では「住宅の広さ・間取り・部屋数」がもっとも多く、21.3%です。ついで「住まいの手ごろさ（広さ・間取り・家賃）」13.6%、「日当たりや風通し」12.1%、「押入・物置等の収納スペース」10.3%などとなっています。

また住環境では、「通勤・通学先への近さ」がもっとも多く22.4%です。ついで「日常の買い物への利便性」16.0%、「子育て支援・教育の充実度」15.3%などとなっています。

若年単身期にくらべ、住宅性能では広さや間取りも重視されています。住環境では若年単身期と同様、利便性も上位に挙がっていますが、子育てや親族との関わりも重要と考えていることがわかります。

図 2-5 子育て期に重視する住宅性能

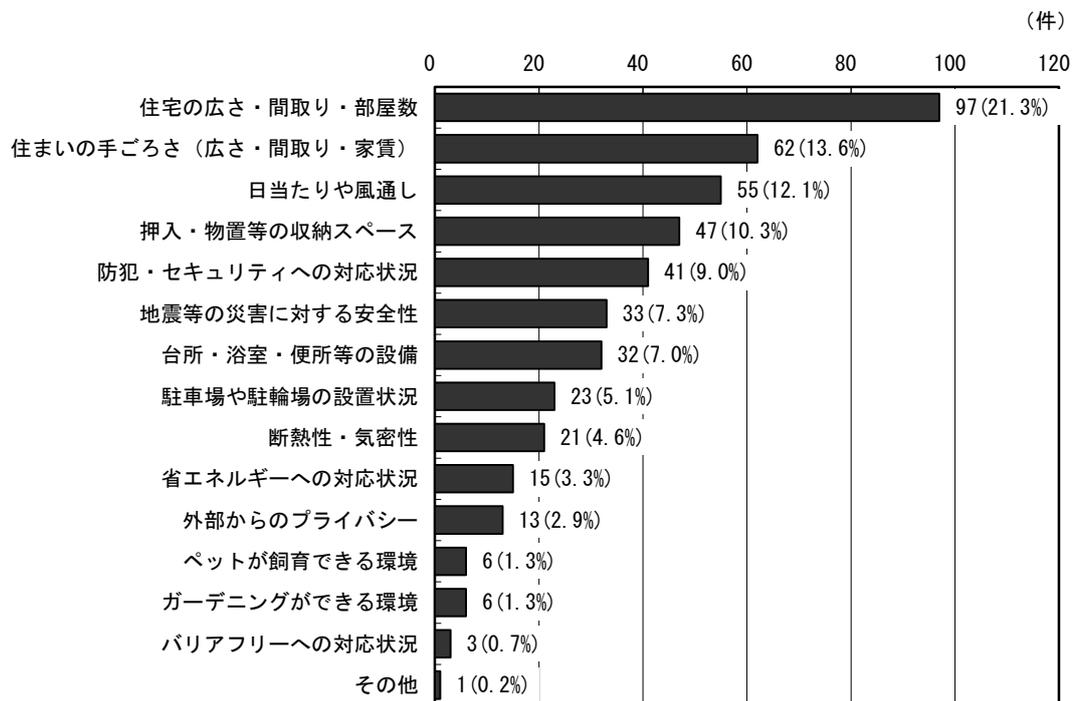
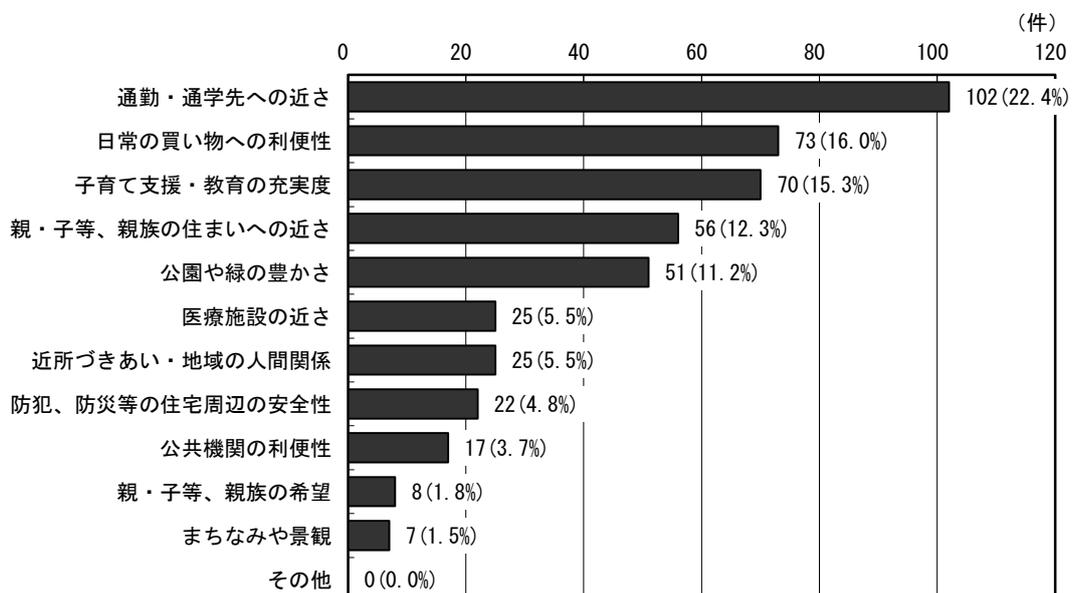


図 2-6 子育て期に重視する住環境



< 高齢期 >

住宅性能では「バリアフリーへの対応状況」がもっとも多く16.9%です。ついで「日当たりや風通し」16.5%、「地震等の災害に対する安全性」14.4%などとなっています。

また住環境では、「日常の買い物への利便性」がもっとも多く21.9%です。ついで「医療施設の近さ」21.5%、「公共機関の利便性」16.2%などとなっています。

住宅性能ではバリアフリーが最上位に挙げられているのが特徴です。住環境では、若年単身期や子育て期にくらべ、通勤・通学や子育て・親族に関するものは重要視されず、日常生活や通院の利便性、近所づきあいが上位に挙げられています。

図 2-7 高齢期に重視する住宅性能

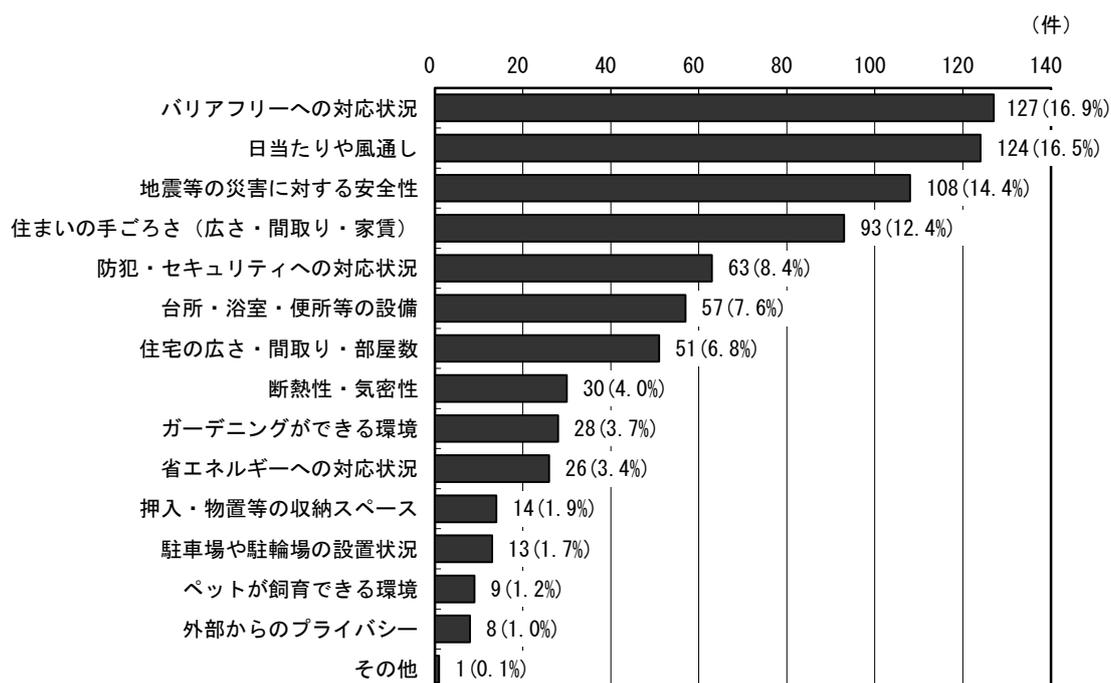
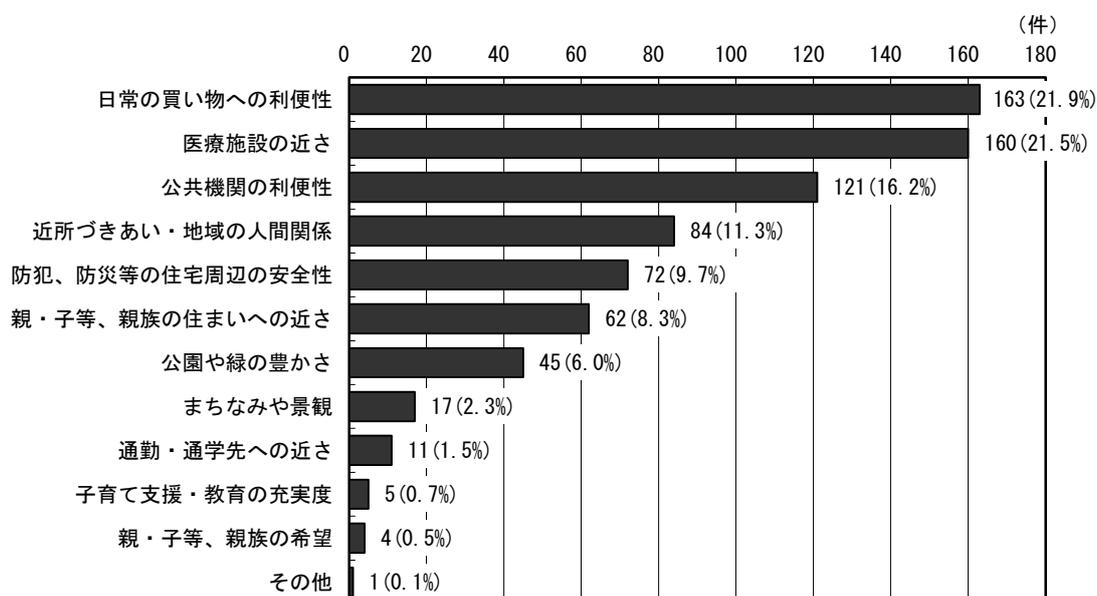


図 2-8 高齢期に重視する住環境



(2) 住宅に関する必要な情報（3つまでの複数回答）

「住宅の品質や性能の情報」がもっとも多く、23.4%です。ついで「住宅を維持管理する情報」18.3%、「住宅トラブルの相談ができる情報」14.8%などとなっています。

またこれを家族類型別にみると、いずれも「品質や性能」「維持管理」が多く全体の傾向と大きくはちがいませんが、「親・夫婦・子ども」では「トラブルの相談」がもっとも大きな比率を占め、かつほかの類型よりも多いことがわかります。

図 2-9 住宅に関する必要な情報

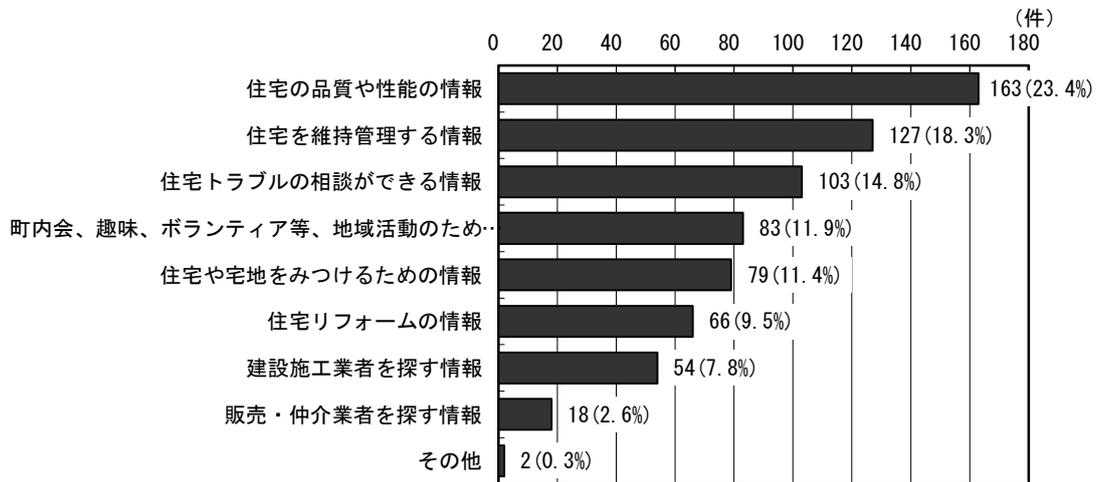
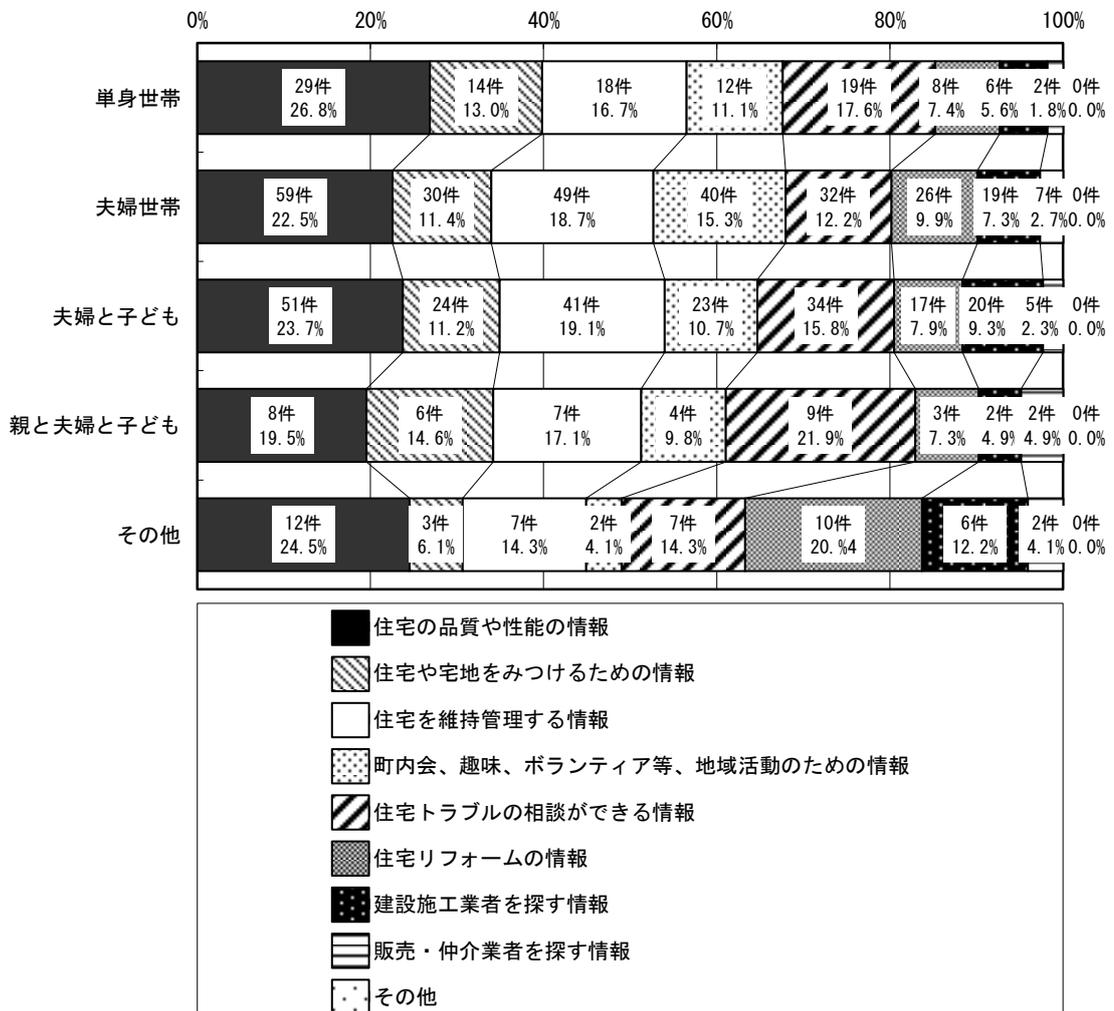


図 2-10 住宅に関する必要な情報（家族類型別）



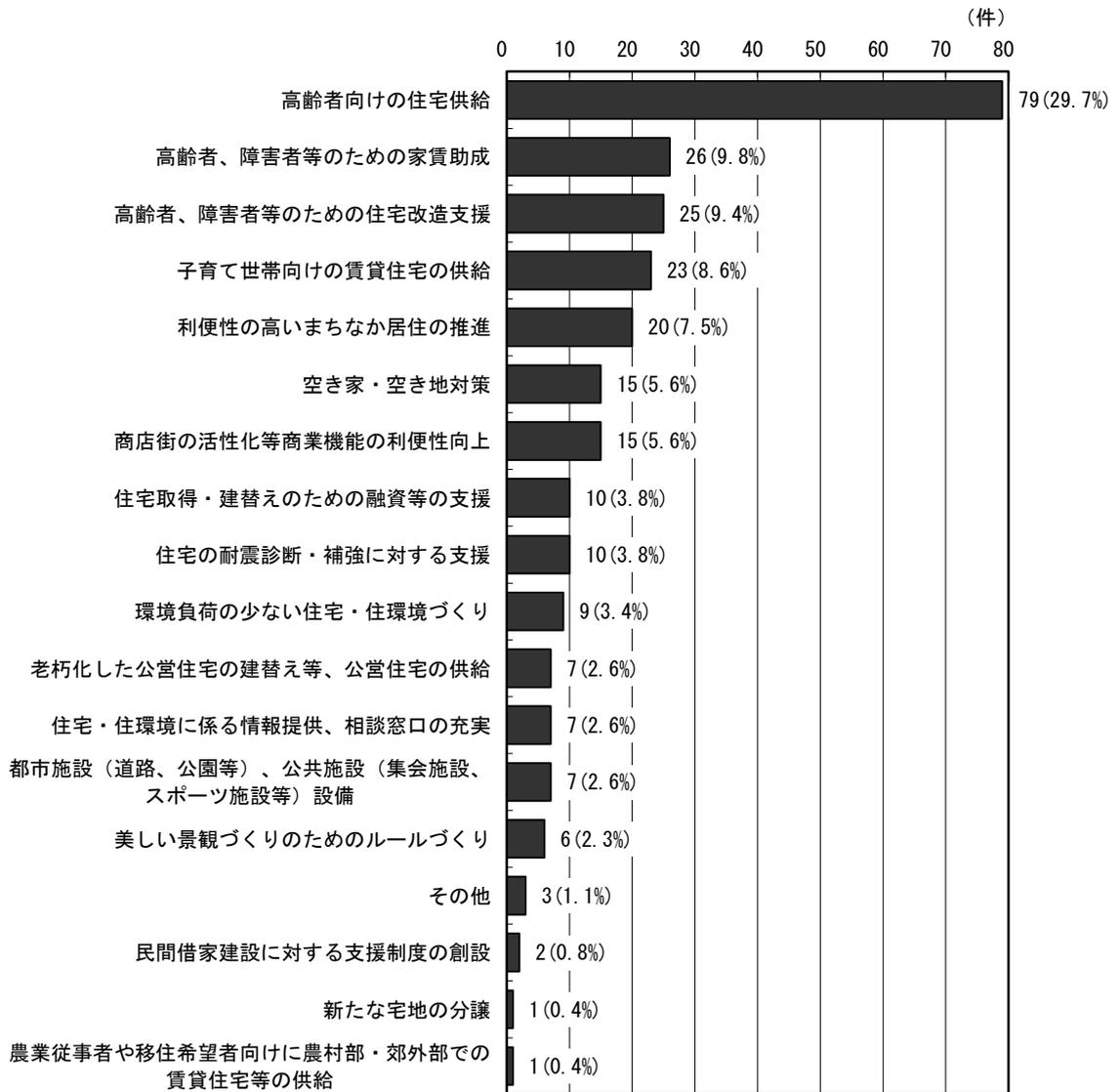
3. 今後の住宅と住環境について

問 10 住宅を選ぶとき今後の住宅関連施策の展開方向について

(1) 単純集計

回答者がもっとも重要(1位)だと思う住宅施策は「高齢者向けの住宅供給」で、29.7%です。ついで「高齢者、障害者等のための家賃助成」9.8%、「高齢者、障害者等のための住宅改造支援」9.4%、「子育て世帯向けの賃貸住宅の供給」8.6%、「利便性の高いまちなか居住の推進」7.5%などとなっています。

図 3-1 もっとも重要だと思う住宅政策



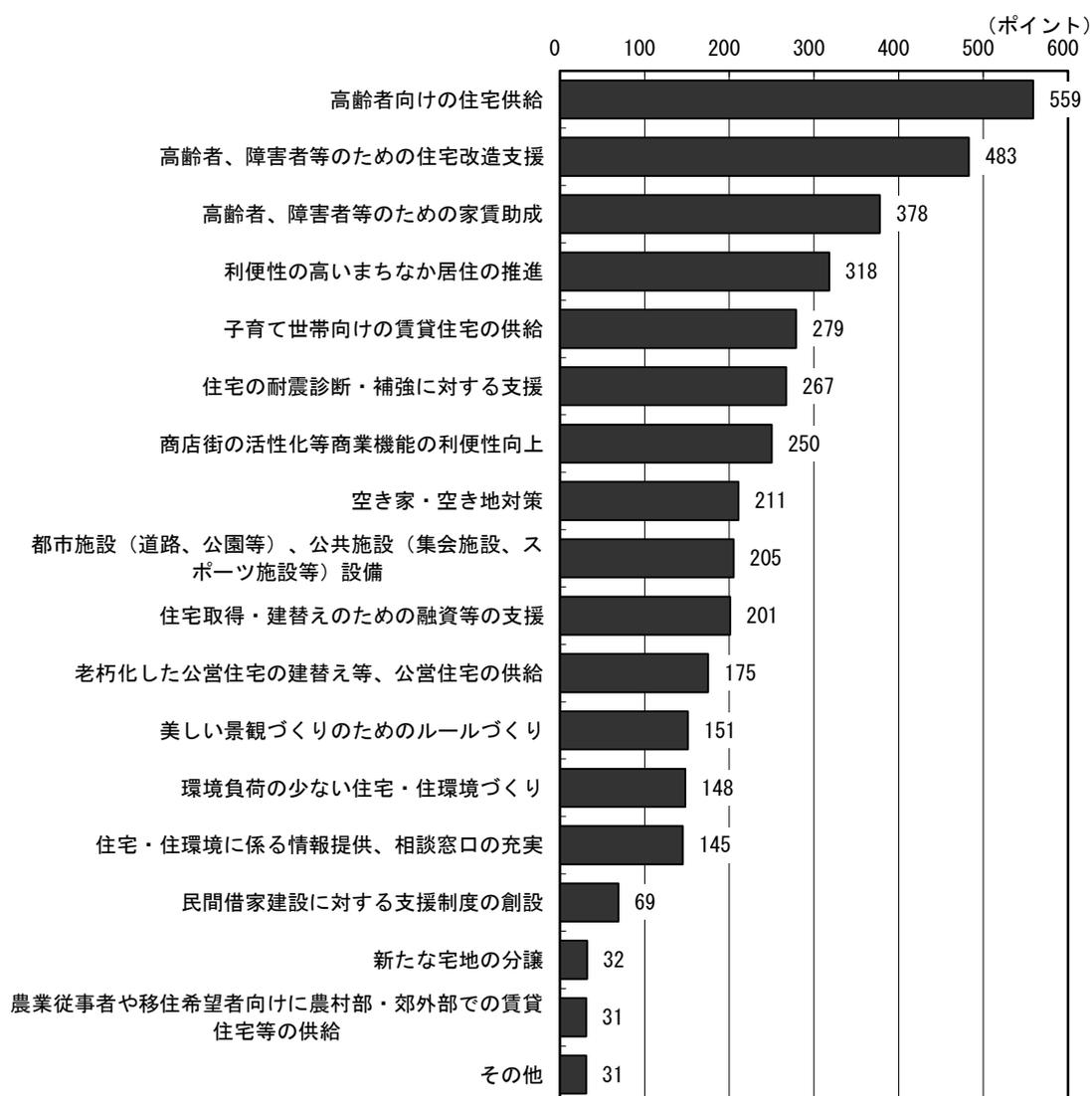
(2) ポイント換算

重要と思う住宅施策のポイント換算は、1位を5点、2位を4点・・・5位を1点とし、それぞれの順位で回答された施策の回答数に、この点数を乗じたものです。

もっともポイントが高かった施策は「高齢者向けの住宅供給」で559ポイントでした。ついで「高齢者、障害者等のための住宅改造支援」483ポイント、「高齢者、障害者等のための家賃助成」378ポイントなどとなっています。

上位3施策とも高齢者にかかわるものであり、高齢化社会における住宅施策が重要視されていることがわかります。そのつぎに、子育て世代に関するもの、また暮らしの利便性に関するものがランクされています。

図 3-2 もっとも重要だと思う住宅政策（ポイント換算）



(3) 重要と思う施策と具体的なアイデア・進め方等

重要と思う施策	主な意見・進め方等
高齢者向けの住宅供給	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者向け住宅を集合させた地区をつくり、ケアサービスや畑作環境、買い物、病院などを充実させる。 ・シェアハウス。 ・一人暮らしが多くなっているので、お世話してくださるところがあるとよい。 ・箱をたくさん作っても高齢者が少なくなる 20 年後のことも考えてほしい。 ・低廉な高齢者マンションを自治体で建設する。できれば子育て世帯向けの賃貸住宅と併設し、欲を言えば男女独身者も併せてと言うのは、昔の三世代の住居を家族的な交流ができる。当然寝食は別である。 ・まだまだ市営住宅は不足。空き家を利用し、低価で望む。 ・空き家の有効活用。 ・高齢者へ調査し、どの程度本人達が希望しているのか把握してすすめる。 ・独居が難しくなった高齢者向けの集合住宅が増えればよい。 ・病院、介護施設、スーパー等が近くにある、老夫婦二人で住める市営住宅。 ・在宅事業所や通所サービスなどが併設された集合住宅。 ・介護を受けずに高齢者が自立して生活できる住宅づくり。例えば、隣に病院やバス停などがあるとか。 ・一人で生活できなくなった高齢者が入居できるケア付き住宅の需要が増す。 ・安心、安全な住宅。 ・少子高齢化時代が続くと思う。 ・高齢者の一人として、この項目について努力していただきたい。 ・部屋数は少なくとも暖かい方がよい。 ・バリアフリーの段差のない住宅。 ・バリアフリーの住宅。 ・グループホーム、男女ごとの充実。 ・商店街に近い場所の住宅提供を。 ・高齢者マンションの開発事業者にただ単に補助するのではなく、マンション周辺に便利施設等を配置し、そのエリア自体の魅力向上に繋がるようなお金の使い方。 ・バリアフリー、緊急の通報等を考慮する建設業に対する支援も含む。 ・安心して長生きできるようお願いします。 ・まちなかに高齢者が住みやすい環境を整えてやるようにする。 ・高齢者でも住める住宅がほしい。 ・高齢者と若年層の混合マンション等。 ・家賃の問題をクリアすること。 ・高齢者をいたわる世の中に。 ・西帯広地区に住む 79 歳の女性です。まだ、足腰が丈夫ですからありがたいことにカードでバスで街に出かけています。街がもっと活性化して便利になると寝たきり老人は少なくなるでしょう。 ・高齢者相互のコミュニティ充実（公園の活用改善）。 ・2 世代、3 世代が共生するための支援としての公営共同住宅。核家族化の対策として。 ・高齢者が住みやすい地区をつくり、家ではなく地区全体が住みやすい環境をつくる。 ・老後、単身世帯になったことを考えてみると非常に不安です。現在の持ち家等を処分して入れるような高齢者向けの住宅（公共）があればと思う。 ・高層建物等、エレベーター設置。階段は苦痛。特に市営住宅。 ・老朽化した公営住宅（長屋タイプのもの等）を高齢者向けに整備して、市として家賃助成しながら運営してはどうか。

重要と思う施策	主な意見・進め方等
高齢者、障害者等のための家賃助成	<ul style="list-style-type: none"> ・家賃助成も必要と思いますが、灯油の料金も安くしてほしい。 ・低年金。 ・年金なので助成。 ・年金（少ない方）暮らしが多いので、市からの補助金が出るとよい。 ・2万でも助成があると助かると思う。 ・高齢者には住宅取得、建替え、リフォームのための融資等の支援が不足である。その資金は生活保護費の見直し。そして受けなければならない世帯が受けられない。 ・これからますます高齢者が多くなるから。 ・助成すべき。 ・現状の年金生活者は、この制度を広げていただきたい。 ・豊かな高齢者は今後不在になると考えます。助成は助かります（持ち家の人には塗装等、営繕補助費の助成など）。 ・低所得者や障がい者の負担軽減必要。 ・高齢者は所得制限を設け、障がい者は条件なしで家賃助成するように。 ・家賃助成等があればよいと思う。 ・家賃助成するのはいいが、助成分の負担を誰がするかが問題となる（国 or 市）。 ・個人の財産や収入を確認する必要があると思いますが、必要最低限の生活を送ることが困難な場合は、家賃の助成が必要（生活保護）？ ・市住にバリアフリー住宅があればいい。 ・高齢者の家賃の助成。
子育て世帯向けの賃貸住宅の供給	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人たちが住について心配のない政策助成。 ・子どもがいないと将来の日本は滅んでしまうから。 ・学校の近くに集合団地など。 ・子育て世帯へのアンケート調査。 ・子育て世帯向けの公的な住宅、家賃助成。 ・子育て世帯は賃貸が高いと子どもを家に残して働きに出る。 ・公営住宅を子育て世代に優先的に入居してもらおう。 ・1番大事な子育て世帯の負担を少しでも軽減して、安心して子育てができるような低家賃住宅の供給。 ・今の若い人たちはお金がない。子育てを増やすためには有効。 ・子ども育てと高齢者を区分しないで混在できる公営住宅を望む。 ・少子化時代なので、子育て世帯が気楽に借りられる住宅。 ・通学しやすく、学校周辺。 ・若者がいないと活性化できない。 ・現在の施策は国、地方自治体とも高齢者主体で行われており、少子化対策としても子育て世代への支援を増やすべきと考える。 ・2世代、3世代が共生するための支援としての公営共同住宅。核家族化の対策として。 ・入居者が決まらない賃貸住宅を集め、格安で提供する（子どもが家を多少傷つけてもいいような賃貸住宅）。 ・帯広市ホームページに情報の公開。

重要と思う施策	主な意見・進め方等
老朽化した公営住宅の建替え等、公営住宅の供給	<ul style="list-style-type: none"> ・公営住宅の建設時に市の景観や交通の利便性も考えておけば、市全体の住みやすさが良くなる。 ・年金の一人暮らしが多くなると思います。暖かい住宅にしてほしい。 ・バリアフリー化した住居の静が必要。 ・早急に建替えて提供する。 ・なるべく中心街の空地を取得して建てる。 ・財政が厳しいのはわかるが、建替えは急務。予算に組み込んで。 ・実際に入居している人の意見・希望などを調査しすすめる。 ・学校の近くに公営住宅。老朽化→バリアフリーへ。 ・まちなかエリアに公営住宅を供給し、子育て世代へ家賃補助などを行い市外への流出を防ぐ。 ・2世代、3世代が共生するための支援としての公営共同住宅。核家族化の対策として。 ・ソーラーパネル等のある住宅（共同の電気に使用）。
住宅取得・建替えのための融資等の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・低所得者に対する補助等。 ・帯広から人を出さないためにも優遇すべき。
民間借家建設に対する支援制度の創設	<ul style="list-style-type: none"> ・公営住宅のイニシャルコストからランニングコストを考えると家賃補助等の施策を一考。 ・公住等の廃止、民間へ（補助）。 ・固定資産税軽減の年数を10年くらいまで延長してくれると助かります。 ・公営住宅を縮小し、民間借家（建て主、貸し主）への支援を拡充する。 ・民間業者のアイデアを活用し、借家に入居し安いうようにしては。
高齢者、障害者等のための住宅改造支援	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーに。 ・きめ細かな助成制度を施策に入れてほしい。 ・低収入者のための支援をしての相談助言の窓口設置。 ・助成制度の充実。 ・安心して住める家が少ない。 ・増加する高齢者のため、予算沢山取ってPRしてください。 ・低所得者に対する補助等。 ・介護保険制度の見直し。助成金の見直し。 ・助成だけでなく、相談窓口の拡充や専門家の参加。 ・借家などにも手すりなどを付けられるような支援。 ・対象者が理解しやすい制度。 ・バリアフリー。 ・年とともに古くなり足腰の弱くなったものの安全確保のため。 ・低所得、低年金受給者が多い。 ・足の悪い年寄りが多いので、エレベーターなど便利を図ってほしい。 ・現状の年金生活者は、この制度を広げていただきたい。 ・必要な改造（水回り等）費について補助を望む。 ・バリアフリーにする方法の情報提供。 ・今の住宅を少しリフォームすることで、そのまま住み続けられるように支援する。 ・それなりに知識及び経験のある方が、その方にあったアイデアの提供など、アドバイスしていただくと良い。 ・所得に応じた支援で低所得者に重点をおくべきと考える。 ・資金（補助）の支援があれば改善しやすい。 ・市で住宅改造支援として帯広市で業者を審査推奨していただき、市民が安心して工事を依頼できるようになればと思います。 ・高齢者のバリアフリーの支援。 ・高齢者、障がい者が住宅改造する際は、全体の何%かを控除し負担を減らす（市町村が負担）。

重要と思う施策	主な意見・進め方等
住宅の耐震診断・補強に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の根拠である住宅を地震災害から守るため。 ・市役所の窓口がひとつではなく、コミセン等の出張窓口もほしい。 ・老朽マンションに住んでいる方は地震のたびに怯えている。一定㎡以上に補助を。 ・安心・安全な住居の確保。 ・耐震診断等、なかなか住民からは気になるが声にならない。 ・リフォームはきりがありません。せめて耐震診断の支援を。 ・無料で診断とかしてほしい。 ・個人ではなかなか分からないし、金額もかかるのでは。 ・定期的な診断。 ・かなり古い住宅で耐震の処置がされていない。
空き家・空き地対策	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家が多く見られる地域の中でコミセン、福祉センターまで行かなくても近所の空き家の使い方を考えてほしい。 ・中心市街地近辺の空き地等の斡旋。 ・帯広市が肥大化しないよう、帯広市の中心部やその周辺のエリアに限り、空地の取得について補助又は固定資産税の減免。 ・空地、空家情報を行政で集約し、所有者と利用者方法を検討し情報公開する。 ・今は旧市街部で多いが郊外に広がると思う。同年齢者が新居を持ち小学校が広がり、移転したように住宅の空きが移ると思う。 ・近年空き家が目立つが、生活環境上、防犯上、まちなか美観上からも対策が必要。行政指導。 ・管理（美化）。 ・国道あるいは幹線道路沿いの空き家（空き店舗）は減らせる努力を。 ・地主等に積極的に連絡。 ・近所に古い空き家があると草が背高く伸びて環境に良くない。 ・空地にはマンションを若者と老人が階を別に一緒に住めるよう、1階には全員利用できる空間を。 ・空き家～壊れそうな空き家の整備。 ・空き家が段々多くなっていくので市で斡旋してほしい。 ・少しでも空き家をなくすることによって、地域の安全安心な環境づくり、空地は防災との係わりで検討。 ・冬、雪置き場、雪捨て場等に使用できると良い。 ・中心街で土地が狭く駐車場が取れない。 ・併せてリバースモーゲージ制度の周知。 ・まだまだ住める住宅が一杯。低家賃住宅の活用を。 ・全てに利便性のある中心部の空き家空き地の解消を国・道・市で法的に企画整備ができないものか。地主が土地は国から預かり管理しているだけで整理できないものか。自治体の保有する土地が少なすぎる。そして理解を求めたいものです。 ・空き家を補修した上で低所得者へ賃貸する（借上げ）。 ・空き家を公共施設に改築。 ・帯広市ホームページに情報の公開。 ・空き地の草刈り等、地主へ指導協力。 ・不在地主と協議。 ・コンパクトな街づくり。 ・空き家については、リノベーションを行い、今の現状に合わせる。そして企業団体に貸家を提供する。

重要と思う施策	主な意見・進め方等
住宅・住環境に係る情報提供、相談窓口の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者とトラブルになった時に建築に詳しい人に相談できる窓口がない。 ・安心できる業者の紹介及び案内。 ・どこにどう相談して良いのか窓口がわからない。 ・条令か何かで5年単位の借家契約で空き家、土地の有効利用していけるようにする。今は、立ち退き料を考え、貸さない人もいると思う。 ・インターネットを普及させる。 ・広報おびひろに載せる。 ・ホームページに情報提供されていますが、少しわかりにくい印象があります。 ・以前、夜中の1時2時に2時間近くエンジンをかけっぱなしで大型トラックを止められることが続き、嫌がらせされているかとおもうことが2年以上続いた。騒音と振動も暴力行為です。 ・相談窓口（気安く）があれば安心。
利便性の高いまちなか居住の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・広小路の一角をマンション化して、一階に商店。 ・ケア付きの住宅も必要。 ・まちなか活性化を見据えて（ドーナツ化現象の解消を期待して）、家賃設定も安価に、異世代で居住できる住空間。 ・コンパクトシティの推進。 ・公共交通機関（市営交通機関など）の整備も必要。 ・町から離れると出かけるのが面倒。 ・街中が空洞化しているので、利便性のいいまちなかにグループハウジングなどをつくる。 ・今後、高齢者ばかりになるかもしれないので、まちなかに居住できるように。 ・旧イトーヨーカドーのビルをマンションに改装したらどうでしょうか。 ・中心部の空地や空き店舗を有効活用するため、所有者と情報交換し公開する。 ・公共施設、銀行、病院等が必要。 ・車社会になっているので公共の交通機関を利用できる方法。買い物をしてもそれを運搬する日常生活に利便性を図る。安価な買い物が燃費、時間の浪費で高価な買い物になることを消費者に理解を得る。 ・最近、郊外型が進み、街中の活性化を強力推進。 ・まちなかエリアに公営住宅を供給し、子育て世代へ家賃補助などを行い市外への流出を防ぐ。 ・まちなかに高齢者の集合住宅や施設（泊まりでも通いでも）をつくり、その住民や利用者が商店街を利用できるような仕組みをつくる。 ・広小路のまわりの空き家を居住改造すれば全てに便利。 ・シェアハウス型マンション。 ・一人暮らし者を対象として居住。 ・交通手段のない人が増えていくので、歩いても買い物ができるような範囲で住宅供給。 ・広報おびひろに載せる。 ・インフラ整備（歩行空間の整備）。 ・コンパクトシティの推進。 ・市街に中心地に集まる工夫。 ・コンパクトシティの考えとしても重要。 ・今後の高齢化を見据えて、日常の買い物・通院等で自動車が使えなくなってくることを考えて、各施設の集積化をし、高齢者住宅・公共交通の充実を図る。
新たな宅地の分譲	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と子育て世帯が共存し、お互いをサポートしながら暮らしていけるような環境整備をしたマンション。 ・再開発、ミニ分譲地の造成。 ・これからの人のための造成。 ・市直営の団地づくり。 ・帯広市ホームページに情報の公開。 ・コンパクトシティの延長として市街地中核の人口密度集積をはかるためにも旧市街地の空き地を中心としたミニ開発が必要と考える。

重要と思う施策	主な意見・進め方等
農業従事者や移住希望者向けに農村部・郊外部での賃貸住宅等の供給	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農や移住の希望者に対する住宅情報の提供。 ・帯広市の税金が高いので住みたくないという話を聞き、心配です。 ・自然環境の中での生活。用地有り。
都市施設（道路、公園等）、公共施設（集会施設、スポーツ施設等）設備	<ul style="list-style-type: none"> ・道路環境の整備、充実させること。主要幹線のみならず、市道の舗装、除雪の充実。 ・冬の道路の除雪が悪く、住宅地は歩きづらい。歩道も確保されていない。町内会等への協力の要望が必要。 ・身近にあると刺激がある。 ・特に雪対策を考えて欲しい。 ・高齢者マンションの開発事業者にただ単に補助するのではなく、マンション周辺に便利施設等を配置し、そのエリア自体の魅力向上に繋がるようなお金の使い方。 ・帯広市総合体育館の建替のことを耳にしました。可能ならば同場所をお願いしたい。管内からも来やすい所。 ・子ども達が安心して遊べる施設整備を。 ・公共施設の階段など手すりなどを付けてほしい。 ・住宅地域の道路整備（特に除雪）を重視。 ・除雪を速やかに実行。 ・グリーンパークをもう少し活用できないか。 ・集会施設の改善を図っていただきたい。 ・公共施設においては大変良くなってきていますが（特に集会施設）、例えば福祉センターで築20年経過の建物の改築を推進。 ・年数が経てば劣化もしてくるので整備は重要。 ・道案内などの標識の整備が必要。 ・帯広が冬季スポーツ種目の拠点となるようなスポーツ施設、宿泊施設を完備し、各スポーツ大会、合宿などを誘致する。 ・公共施設の充実。 ・冬の期間は特に、小さい（特に乳幼児）子どもの遊べる施設が少ない（児童館は古くて寒くておもちゃも壊れたままになっています）ので、小さい子ども連れ世帯が充実して過ごせる工夫をして欲しいです（街中もおむつ替え、授乳施設、飲食するのも、その場所を探すのが一苦労）。

重要と思う施策	主な意見・進め方等
<p>商店街の活性化等商業機能の利便性向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ アウトレットモールやショッピングモールといった1箇所では殆どの買い物ができるような商業環境の整備（市街中心地域に）。 ・ 地元の商店は十勝ブランド、帯広ブランドとして栄えているが、若者が求めるshop等がなく、さっぽろ等まで行って買い物しているのが現状。 ・ 駅前～飲屋街を他の町とは違う個性的な景観にし、十勝の自慢の料理をアピールしていく。 ・ 路面店が増えれば活性化する。税制、融資等。 ・ 買い物難民でない、商業（店）づくりを。 ・ 駅前の活性化を。 ・ 郊外型が多いので、そこまでの交通機関の整備が必要。 ・ 主に、バス・タクシーの交通網を各商店街につなげて、高齢世帯も通いやすいようにする。 ・ 市中心市街地に高齢者向け住居（ケア付きの有無に拘わらず）を誘致。広小路を食料品から全てまかなえる小店（個人病院も）の商店街（理容、美容院も）へ。買い物難民を防ぐ。雨でも散歩ができる。 ・ 自分の食べたい物、欲しい物は脳を刺激する。 ・ 商店街のマップを作成して詳しく載せる。 ・ 商店街のピーアールを実施した方が良い。 ・ ○○商店街、○○通り等の発展。 ・ とにかく商店街が元気になってほしい。 ・ 商店街、広小路等の何人も行ける商店街を望む。 ・ 消費がスーパー、コンビニに集中し、個人商店の専門化。安全で安心できる商取引。即信頼される商店、そして商店街で地産地消をすすめる。 ・ 駅前にはホテルと駐車場とコンビニでは魅力のない町になると思う。 ・ 行動範囲があまり広がらない方が良い。 ・ 荷物が多くなって気軽に配達してくれるシステムがほしい。 ・ まちなかのドーナツ化は無料の大型駐車場がないことから目立ち始めました。土日の官庁舎駐車場開放だけでなく、無料で使用できる駐車場は絶対必要です（有料駐車場は落ち着いてショッピングできません）。（旧ヨーカドーの建物利用が待ち遠しいです。異世代住居への変更など） ・ 不便な所、あるいは高齢者のために宅配の買い物ができたらいいね。 ・ 広小路の活性化。 ・ まちなかに高齢者の集合住宅や施設（泊まりでも通いでも）をつくり、その住民や利用者が商店街を利用できるような仕組みをつくる。 ・ 街の中に空き家があると寂しい。街全体が暗くなる。 ・ 高齢になると車の運転も無理になり、遠くへの買い物は少なくなります。商店街のまわりに住むことは買い物、人とのふれあいもあり、住む人、商店ともによいのでは。 ・ 最近、市の中心街に用件があり、西2条通り（土曜日の午後）、車の通行で歩行者（買い物）する人数が少ないのに驚きました（全市で取り組むこと）。 ・ 分離帯のある道路には商業施設がはりつきづらい。対策を。 ・ まちなかに高齢者住宅を供給し、町内会が結成できるようにして欲しい。 ・ 都市計画の基本的理念の確立。 ・ 既存住宅の省エネ改修等、ローコストでの具体的施行方法等を提案していくべきと考える。 ・ 住みやすい住宅、特に身体に優しい環境を望む。

重要と思う施策	主な意見・進め方等
環境負荷の少ない住宅・住環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭にソーラーパネルを設置し、省エネルギー都市をつくる。 ・低コストで環境負荷の少ない実験モデル住宅による普及や既存住宅の改良方法の啓発や助成措置を打ち出すこと。 ・地域性を活かすため、太陽光発電の補助金を増加。また、メンテナンス費用の助成など。 ・電気供給をソーラー・風力も使うようにする。 ・市としてごみ減量化・省エネにある程度特化すべき。 ・特に最近の車社会が進む中、低公害に努力していただき多。
美しい景観づくりのためのルールづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・市中心部のリノベーション。十勝を世界に誇れる街へ。 ・公共施設の使用のルールを厳しく。 ・路上駐車（日中を除く）による交通傷害の改善や街路樹・植樹柵の美観維持。 ・緑の多いまちなみづくりとして、市中に「〇〇並木道」を作る。 ・ゴミ関係。 ・帯広の将来を見据えて、景観を大切にしたり、防災を考えた都市計画をつくってははどうでしょう。 ・ゴミ集積（場所、方法）の美化。 ・帯広市に住みたいと思うような景観づくりが人気になればよいと思う。 ・美しい景観とは何？心地よい空間。 ・帯広市ならではのルールを作り、後世に十勝帯広の美しい景観を残せるようになればと思います。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の中で、子どもが独立した夫婦は、平屋の小さな家に住み替えたい。子育て世代は部屋が多い大きな家に住みたい。互いのニーズにあった家への住み替えを仲介することで住宅事情は改善するし、新たな投資の必要がない。 ・住宅地における排雪は、市が無償で機材等を貸し出す（ダンプ、バケット等）。 ・街中でバス停に近い場所（例えば元のヨーカドー）に老人のプール、その他運動施設があればよい。 ・公共交通機関の整備。 ・郊外から市中への移動の利便性の向上。 ・中心街で土地が狭く駐車場が取れない。税制、融資等。 ・若者から高齢者まで、年齢層が偏らない地域社会づくりを考えてほしい。 ・各町内会のあり方、市民が同じように暮らせる情報等は各町内会のあり方にとっても関係しているように思います。公平に平等に市民が生活できる市を望みます。

問 11 住宅・住環境についての自由意見

住宅施策や住環境などに対する自由意見については、アンケートを回収した312件のうち、37件に記載がありました。

このうち、意見や要望の中でも特に多かったものは、高齢者や障がい者に関するもので約半数に上っております。

高齢者に関する主な意見や要望として、「道路の補修や除雪の対応」が最も多く、その外「公共交通機関の充実」、「住宅情報や住宅相談の充実」、「家賃や住宅補修の助成」、「身近での商業施設の立地」、「街中での高齢者住宅や病院、商業施設の充実」など、身近な生活環境の向上につながる意見や要望が多く寄せられております。

障がい者に関するものとしては2件あり、「家賃や住宅補修の助成」に関するものでした。

その外の主な意見や要望は、「地域コミュニティの維持」、「交通マナーや隣人のマナーの改善」、「住宅ストックなど社会資本の活用」、「環境負荷の少ない住宅づくり」、「中心市街地の活性化」などとなっております。

アンケート票

1. あなた自身とお住まいの住宅について、おたずねします。

問1 あなたのご家族についておたずねします。

家族構成は、どれですか。

(1つ選択)

- | | | |
|-----------|----------|---------|
| ①単身世帯 | ②夫婦世帯 | ③夫婦と子ども |
| ④親と夫婦と子ども | ⑤その他 () | |

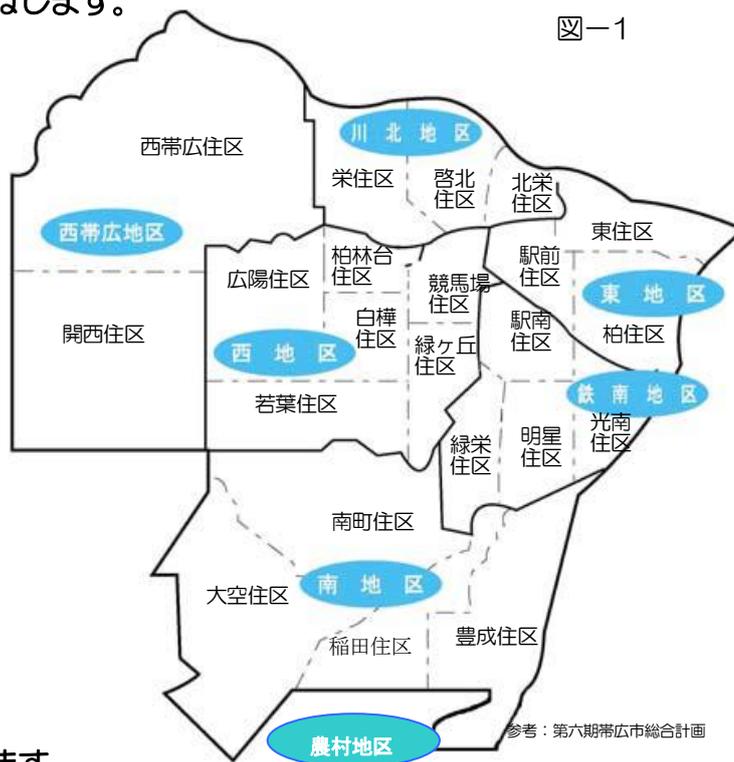
問2 あなたの居住地についておたずねします。

現在、どこにお住まいですか。

(1つ選択)

図-1

- | | |
|-----------|-------|
| ①東地区 | ②鉄南地区 |
| ③川北地区 | ④西地区 |
| ⑤西帯広地区 | ⑥南地区 |
| ⑦農村地区 | |
| ⑧近隣町村 () | |



参考：第六期帯広市総合計画

問3 住宅の種類についておたずねします。

住宅所有形態は、どのタイプですか。

(1つ選択)

- | | | |
|------|-----|----------|
| ①持ち家 | ②借家 | ③その他 () |
|------|-----|----------|

問4 現在の住宅の種類にかかわらず、今後の住み替えについておたずねします。

(1) 今の住宅に住み続けたいですか。

(1つ選択)

- | | | |
|-------------|-------------|--------|
| ①このまま住み続けたい | ②いずれは住み替えたい | ③わからない |
|-------------|-------------|--------|

(2) なぜ、このまま住み続けたいとお考えになりましたか。(前問で、「いずれは住み替えたい」と回答の場合は重視している点を選択してください)

(3つ選択)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| ①通勤・通学時間が短い | ②公共交通機関が充実 |
| ③建物の安全性が確保されている | ④買い物に便利な商業施設がある |
| ⑤病院や役所など生活施設が近く便利 | ⑥レジャー・スポーツ施設が近い |
| ⑦親戚・知人が近くにいる | ⑧教育環境がよい |
| ⑨就学前の子どもの子育て環境がよい | ⑩緑や空気などの自然環境がよい |
| ⑪防犯・防災の不安が少ない | ⑫周辺の雰囲気、イメージがよい |
| ⑬近所づきあい等がやりやすい | ⑭地価、家賃が手頃 |
| ⑮その他 () | |

問5 住み替えを考えている方におたずねします。

住み替える場合、転居先はどの地域がよいですか。※前頁の図1をご参照ください (1つ選択)

①東地区	②鉄南地区	③川北地区	④西地区
⑤西帯広地区	⑥南地区	⑦農村地区	⑧近隣町村 ()
⑨その他 ()			

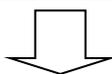
問6 持ち家の方におたずねします。

(1) 今後、建替えや増改築、リフォームの予定がありますか。 (1つ選択)

①増改築の予定がある	②リフォームの予定がある	③建替えの予定がある
④予定がない		

(2) 建替えや増改築、リフォームの内容と時期は、どれですか。 (該当するもの全て選択)

①建物全体の建替え	②間取りの変更、収納スペースの改善
③居室や収納スペースの増築	④高齢者・障害者等に配慮したバリアフリー化
⑤トイレ、台所、浴室等の設備の改善	⑥断熱、防音、結露防止等の性能の改善
⑦基礎、構造等の補強(耐震改修工事等)	⑧内装の模様替え
⑨屋根の葺き替え・塗装、外壁の改修・塗装	
⑩その他 ()	



その時期はいつ頃ですか。 (1つ選択)

①1年以内	②2～3年以内	③4～5年以内	④それ以降
-------	---------	---------	-------

(3) 増改築、リフォーム又は建替えを行う理由はなんですか (該当するもの全て選択)

①新しく(きれいに)したかったから	②傷んでいたから
③狭かったから	④使い勝手が悪かったから
⑤寒かったから	⑥耐震性に不安があったから
⑦高齢者が同居しているから	⑧高齢になった時に備えるため
⑨同居家族の構成が変わったから	⑩その他 ()

(4) 増改築、リフォーム又は建替えを行おうとするときに困っていること(困りそうなこと)はありますか (該当するもの全て選択)

①工事業者の選定	②工事の見積金額(工事費用)の妥当性の判断
③工事内容や工事方法の妥当性の判断	④工事の契約方法
⑤工事に関する照会・相談先	
⑥その他 ()	

(5) 市では木造住宅の耐震性能に不安を感じている方のために、無料の簡易耐震診断を実施しているのを知っていますか。 (1つ選択)

①制度を活用したことがある	②制度について知っていた
③制度のことは知らなかった	
④その他 ()	

(6) 市では耐震診断により「倒壊する可能性がある」と判断された住宅の耐震改修工事を行うときの費用の一部について、補助や融資を行っています。耐震診断によって、あなたの住宅の耐震性能が十分でないことが判明した場合、耐震改修を行いますか。 (1つ選択)

①すぐに耐震改修を実施する	②すぐには実施しない
③資金面等の条件が許せば耐震改修を実施する	④その他 ()

問7 借家の方におたずねします。

(1) 現在の住宅を選ぶ際に重視したことは何ですか。 (3つ選択)

①部屋の広さ	②設備等の新しさ	③手頃な家賃	④周辺環境の良さ
⑤買い物、通勤などの利便性	⑥子どもにとっての利便性 (通学など)	⑦日照や風通しなど居住環境の良さ	⑧その他 ()

(2) 今の住宅を選んだ際に活用したものについてお答えください。 (該当するもの全て選択)

①仲介業者による紹介	②知人の紹介	③インターネット
④勤務先の紹介	⑤住宅情報誌	⑥その他 ()

(3) 今の住宅の入居前に想定していたこととは違い、実際に入居してから困ったことはありますか？ また、それはどのようなことですか？ (該当するもの全て選択)

①住戸間の音	②寒さや暖房費	③結露	④駐車場の雪	⑤駐車場所
⑥広さや間取り	⑦立地条件	⑧防犯性	⑨シックハウス	⑩室内の段差
⑪その他 ()	⑫なし			

(4) 今後、住み替える場合、どのような住宅を探しますか。 (1つ選択)

持ち家	借家
①新築の一戸建て住宅	①民間の賃貸住宅 (一戸建て)
②新築のマンションなどの共同住宅	②民間の賃貸住宅 (マンションなどの共同住宅)
③中古の一戸建て住宅	③市営・道営等の公的賃貸住宅
④中古のマンションなどの共同住宅	④社宅、官舎等の給与住宅

2. 住宅と住環境について、どのような考えをお持ちですか？

問8 高齢者に関することについておたずねします。

(1) 現に高齢者の場合、あるいは高齢者になったとき、どのような住宅で暮らしたいですか。(1つ選択)

① リフォームしながら今の住宅に住み続けたい
② 子供世帯と同居、あるいは隣接して住める住宅
③ 高齢者向けにつくられた賃貸住宅
④ ケア付きの住宅・・・・・・・・・・ 単身、あるいは夫婦のみの高齢者向けに、生活援助のサービスが受けられるような住宅
⑤ グループハウジング・・・・・・・・・・ 各自が自分の居室を持ちつつ、台所や浴室等を共同化して、居住者同士が助け合いながら生活できる住宅
⑥ 有料老人ホーム・特別養護老人ホーム・老人保健施設等の居住系施設
⑦ その他 (具体的に)

(2) 高齢期の生活をするときの不安について、どのように思いますか。 (3つ選択)

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| ①災害や緊急時における対応が不安 | ②高齢期の生活に適した住宅ではない |
| ③住居費の支払いが不安 | ④一人暮らしになると何となく心細い |
| ⑤高齢期の生活に適した住環境ではない | ⑥福祉施設や医療施設の利用が不便 |
| ⑦病気の時に面倒をみってくれる人がいない | ⑧公共施設の利用が不便 |
| ⑨近所に親戚や知り合いがいない | ⑩店舗等の生活利便施設の利用が不便 |
| ⑪気軽に話しをしたり、相談する相手がいない | ⑫住まいの確保が不安 |
| ⑬近所付き合いや参加できる地域活動がない | ⑭その他 () |

問9 住宅を選ぶときに重視することについておたずねします。

(1) 住宅を選ぶときに重視したいことは何ですか。若年単身期、子育て期、高齢期のそれぞれのライフステージ毎に特に重要と思うものをお選びください (それぞれ3つ選択)

- 住宅性能等**
- ①住まいの手ごろさ (広さ・間取り・家賃)
 - ②住宅の広さ・間取り・部屋数
 - ③日当たりや風通し
 - ④地震等の災害に対する安全性
 - ⑤台所・浴室・便所等の設備
 - ⑥防犯・セキュリティへの対応状況
 - ⑦押入れ・物置等の収納スペース
 - ⑧駐車場や駐輪場の設置状況
 - ⑨バリアフリーへの対応状況
 - ⑩断熱性・気密性
 - ⑪外部からのプライバシー
 - ⑫ペットが飼育できる環境
 - ⑬ガーデニングができる環境
 - ⑭省エネルギーへの対応状況
 - ⑮その他 ()

- 住環境等**
- ①通勤・通学先への近さ
 - ②親・子等、親族の住まいへの近さ
 - ③親・子等、親族の希望
 - ④公共機関の利便性
 - ⑤日常の買い物への利便性
 - ⑥公園や緑の豊かさ
 - ⑦医療施設の近さ
 - ⑧まちなみや景観
 - ⑨近所づきあい・地域の間人関係
 - ⑩子育て支援・教育の充実度
 - ⑪防犯、防災等の住宅周辺の安全確保
 - ⑫その他 ()

ライフステージそれぞれについて重要なものの3つを選んで番号を記入してください。

	住宅性能	住環境
若年単身期の世帯		
子育て期の世帯		
高齢期の世帯		

(2) 住宅に関係する必要な情報は、何ですか。 (3つ選択)

- | | |
|------------------|----------------------------|
| ①住宅の品質や性能の情報 | ②住宅や宅地を見つけるための情報 |
| ③住宅を維持管理する情報 | ④町内会、趣味、ボランティア等、地域活動のための情報 |
| ⑤住宅トラブルの相談ができる情報 | ⑥住宅リフォームの情報 |
| ⑦建設施工業者を探す情報 | ⑧販売・仲介業者を探す情報 |
| ⑨その他 () | |

3. 今後の住宅と住環境について、どのような考えをお持ちですか？

問10 今後の住宅関連施策の展開方向について

今後、市として取り組んでほしい住宅関連施策について、以下の選択肢の中から、重要度の高いと思うものを5つ選んで順に番号をお書きください。また、重要度が高いと考えた施策について、その具体的なアイデアや進め方があればお書きください。

1	高齢者向けの住宅の供給
2	高齢者、障害者などのための家賃助成
3	子育て世帯向けの賃貸住宅の供給
4	老朽化した公営住宅の建替等、公営住宅の供給
5	住宅取得・建替のための融資等の等の支援
6	民間借家建設に対する支援制度の創設
7	高齢者、障害者などのための住宅改造支援
8	住宅の耐震診断・補強に対する支援
9	空き家・空き地対策
10	住宅・住環境に係る情報提供、相談窓口の設置
11	利便性の高いまちなか居住の推進
12	新たな宅地の分譲
13	農業従事者や移住希望者向けに農村部・郊外部での賃貸住宅等の供給
14	都市施設（道路、公園等）、公共施設（集会施設、スポーツ施設等）整備
15	商店街の活性化など商業機能の利便性向上
16	環境負荷の少ない住宅・住環境づくり
17	美しい景観づくりのためのルールづくり
18	その他（ ）

重要と考える施策の番号を5つ選んで順に記入してください

順位	具体的なアイデア・進め方等
1位	
2位	
3位	
4位	
5位	

